

平成29年度

(2017年度)

社会福祉法人 東蒲原福祉会

事業報告書

東 蒲 の 里

東蒲の里みかわ園

とうかん福祉サービス

目 次

I 平成29年度社会福祉法人東蒲原福社会 法人事務局 事業報告

	頁
1. 入職・離職状況	1
2. 人員構成	1
3. 相談センターなごみ	2
4. 法人委員会開催状況	
4-1. 組織強化チーム	4
4-2. サービス管理向上チーム	5
4-3. スキルアップチーム	6
5. 東蒲原福社会研修報告	8

1 入職・離職状況

1. 平成 29 年度入職・離職状況（常勤 8 時間職員対象）

名称	法人全体		法人本部		東蒲の里		みかわ園		福祉サービス	
職員数 (4月1日)	131 人		12 人		37 人		39 人		43 人	
	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職	入職	離職
4月	29	0	1	0	2	0	4	0	22	0
5月	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
10月	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	6	0	1	0	0	0	2	0	3
合計	33	8	1	1	2	0	7	3	23	4
入職率	25.19%		8.30%		5.40%		17.94%		53.48%	
離職率	6.10%		8.33%		0.00%		7.69%		9.30%	

※ 平成 28 年度の法人全体の入職率 9.09%（10 人）、離職率 8.18%（9 人）

【計算式】

入職率＝増加労働者数÷年初の全労働者数×100

離職率＝減少労働者数÷年初の全労働者数×100

【参考】

平成 28 年度の介護業界全国平均離職率 15.0%

2 人員構成

1. 平成 29 年度事業所別・雇用形態別職員数（平成 30 年 3 月 31 日現在）

雇用形態	法人全体	法人本部	東蒲の里	みかわ園	福祉サービス
職員	131 人	12 人	37 人	38 人	44 人
臨時的採用職員	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
パート職員	48 人	4 人	9 人	18 人	17 人
再雇用職員	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人
登録ヘルパー	16 人	0 人	0 人	0 人	16 人
合計	196 人	16 人	47 人	56 人	77 人

3. 相談センターなごみ

1. 相談実績（期間：平成29年4月から平成30年3月）

(1) 相談件数および相談方法

月	件数	月	件数
4月	0件	10月	0件
5月	0件	11月	0件
6月	0件	12月	0件
7月	0件	1月	0件
8月	0件	2月	0件
9月	0件	3月	0件
		合計	0件

相談方法

方法	件数
電話	0件
来訪	0件
地域活動時	0件
その他	0件
合計	0件

相談者

相談者	件数
本人	0件
家族	0件
民生委員	0件
その他	0件
合計	0件

(2) 相談内容

相談内容	件数
・介護サービス利用・介護認定について	0件
・介護給付サービスについて	0件
・介護保険外サービスについて	0件
・近隣住民の対応について	0件
・その他	0件
合計	0件

2. 地域との交流活動参加実績

実施日	地区訪問開催	参加者
7月27日	上川地区 黒谷	地区の方 11名
9月21日	津川地区 西	地区の方 6名

実施日	介護サービス勉強会	参加者
2月21日	阿賀黎明高校「黎明学舎」	黎明学舎高校生 6名 黎明学舎先生 3名

3. 事業報告（総括）

相談センター「なごみ」の周知に努めます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① サロン活動への参加だけでなく、地区への訪問を行い地域の方に相談センター「なごみ」を知ってもらいます。訪問したことがない地区へ積極的に訪問します。 ② サロン活動、地区訪問の他に勉強会を開催し、様々な年齢層の方が持つ介護に対する不安や悩みの解消に努めます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① サロンを実施していない地区、過去に訪問していない地区を中心に訪問し、地域の方との交流を持つことができた。 ② 地域貢献活動委員会と一緒に公営塾「阿賀黎明学舎」において、阿賀黎明高校に通う高校生を対象に勉強会を開催し、福祉の仕事の意義や魅力を伝えることができた。また、高校生が持つ福祉に対するイメージや阿賀町に対して感じていることを直接聞くことができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・相談センターなごみの周知には、継続的なサロンへの参加、地区訪問が必要なため、どの職員が参加しても周知が図れるよう体制を整備する。 ・今後も地域貢献活動委員会と協力し、公営塾「阿賀黎明学舎」への訪問を継続し、高校生と意見交換ができる機会を作っていく。今回あげられた質問をもとに写真や事例等を盛り込んだ説明資料を作成し、よりわかりやすく福祉の仕事の魅力を発信していく。 また、進路に悩む高校生の質問に対応できるよう訪問時期の検討を行っていく。

4-1 組織強化チーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
5月18日	○平成28年度検討内容の確認 ○平成29年度事業計画について
6月29日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の検討
7月20日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の検討
9月14日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の検討
10月21日	○人事考課制度における職種別「自己評価表」の検討
1月18日	○平成29年度の活動状況の報告 ○平成30年度に向けた事業計画のあり方についての検討

2. 結果及び課題

(1) 人事考課制度について

- ・平成29年度も前年度に引き続き、人事考課制度の見直しと制度改正に向けて検討を行ってきた。しかし、人事考課制度の見直しに必要な多職種の代表職員の参加調整が難しかったことから、定期的な会議開催が困難となった。

次年度は、この点を踏まえて会議やワーキングチームの活動を計画することとした。

次年度も今年度と同様に人事考課制度の改正に向けて検討を継続するとともに、新たな制度について職員に分かりやすく説明し、スムーズに新制度へ移行できるよう取組を実施する。

4-2 サービス管理向上チーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項
6月8日 (ワーキング)	○平成28年度活動報告及び平成29年度事業取り組み検討 ・平成28年度事業報告 ・平成29年度事業計画
8月2日 (全体会)	○各施設におけるQCサークル活動の進捗状況(1回目) ・東蒲の里：テーマ「居室の整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「短期入所の忘れ物の削減について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「時間外勤務時間の削減について」
10月27日 (ワーキング)	○各施設におけるQCサークル活動の進捗状況(2回目) ・東蒲の里：テーマ「居室の整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「短期入所の忘れ物の削減について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「時間外勤務時間の削減について」
11月24日 (ワーキング)	○各施設におけるQCサークル活動の進捗状況(3回目) ・東蒲の里：テーマ「居室の整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「短期入所の忘れ物の削減について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「時間外勤務時間の削減について」
2月23日 (全体会)	○平成29年度QCサークル活動の事業報告 ・東蒲の里：テーマ「居室の整理整頓について」 ・東蒲の里みかわ園：テーマ「短期入所の忘れ物の削減について」 ・とうかん福祉サービス：テーマ「時間外勤務時間の削減について」

2. 結果及び課題

(1) 各施設におけるQC活動について

各施設において、課題解決に向けて、「現状把握」、「課題の分析」、「対策の立案・実施」、「効果の確認」の4ステップを段階的に行った。

各施設において、効果的な改善策を実施し、課題解決することができた。

現状を数値化、細分化し、マニュアルなどと照らし合わせることで、客観的に課題を分析することができた。対策を実施し、その結果を確認することで、達成感を実感することができた。

(2) 今後の取り組みについて

業務改善におけるPDCAサイクルは終わりが無いため、29年度に取り組んだ課題の継続や、新たな課題に対する取り組みを行い、広く職員に周知を行いたい。

4-3 スキルアップチーム

1. 委員会開催状況

開催日	協議事項等
5月17日	○平成29年度の各種研修について ・同業種研修 ・異業種研修 ・5年目振返研修 ○指導力向上のための法人研修の実施について検討 ○新規事業開始に伴う新任職員研修について検討
6月21日	○平成28年度の各種研修の評価について ○平成28年度入社5年目振り返り研修の内容について検討
7月19日	○平成28年度の各種研修の評価について ○平成28年度入社5年目振り返り研修の報告、反省 ○新規事業開始に伴う新任職員研修について検討
8月24日	○新規事業開始に伴う新任職員研修について検討
9月20日	○平成29年度入社5年目振り返り研修の内容について検討 ○新規事業開始に伴う新任職員研修について検討
10月11日	○各種研修の進捗状況について ○平成29年度入社5年目振り返り研修の報告、反省 ○新規事業開始に伴う新任職員研修について検討
10月18日	○東蒲原福祉会職員研修体系の見直しについて検討 ○平成30年度東蒲原福祉会職員研修計画（案）作成
11月15日	○平成30年度東蒲原福祉会職員研修計画（案）作成
1月17日	○各種研修の進捗状況について ○平成30年度東蒲原福祉会職員研修計画（案）作成
2月21日	○平成30年度東蒲原福祉会職員研修体系図の変更について報告 ○平成30年度研修計画について

2. 結果及び課題

(1) 法人研修体系

平成29年度についても、東蒲原福祉会研修体系図をもとに、職員の目指す目標に応じた研修や入社年数に応じた研修を実施した。

(2) 同業種研修

同業種研修については、社会福祉法人つばめ福祉会に協力して頂き、6名の職員が研修を実施した。他事業所が行っているマニュアルの整備方法やご利用者への食事の提供方法などを実際に見ることで、よりわかりやすく学ぶことができた。

(3) 異業種研修

異業種研修については、「月岡温泉ホテル泉慶」に協力していただき、4名の職員が3日間の研修を実施した。お客様の立場に立った細やかな対応を学ぶことができた。

(4) 研修体系図の見直し

平成29年度に引き続き研修体系の見直しを行った。今まで実施してきた研修内容を評価、参加職員からの感想及び現在の職員体制の現状に合わせた研修計画を作成し、新たに研修体系図の見直しを行った。

新任職員研修については、入社した職員がよりスムーズに業務に就けるよう、開催日を4月から前年度3月へ変更し実施した。

平成30年度については、新体系での研修を実施するとともに、円滑に変更後の体系へ移行できるようフォローを行っていく。

5 東蒲原福祉会研修報告

1. 研修別内容

研修名	開催日	内容・講師	対象職員	参加者数
新任研修	年度中	東蒲原福祉会新任職員研修 講師：東蒲原福祉会 職員	新任職員	19名
専門研修及び監督職研修	7月27日 ・28日 8月3日 ・4日	「指導力向上のための研修」 講師：東蒲原福祉会 施設長 清野 光 施設長 加藤 真由美	入社5年目の職員 新たに係長、リーダー、専門指導職になった職員	11名
現任研修	8月9日	「問題解決」 講師：イケノFPオフィス 代表 池野 比呂史氏	入社2年目から4年目の職員	18名
役員研修	2月16日	「経営について」 講師：(有)ピー・エム スリー 高橋 英明氏	理事 監事 評議員 事務局長 施設長 課長	15名

2. 結果及び課題

東蒲原福祉会研修体系に基づき、平成29年度事業計画に掲げた研修を実施した。

- ・現任研修では、外部講師を招き、「問題解決」をテーマに実施した。演習中心の研修を行い、具体的な問題事例を用いて、原因の捉え方や解決方法を学ぶことができた。
- ・専門研修及び監督職研修は、部下を指導する立場となった職員を対象に「指導力向上のための研修」をテーマに実施し、レジュメの作成方法や話し方などの講義スキルを学んだ。
- ・役員研修は、中小企業診断士の講師を招き、「経営」をテーマに実施した。演習を交えて経営に必要なコミュニケーションスキルを中心に学ぶことができた。

演習やグループワークを織り交ぜた研修を多く実施することができた。業務の都合により研修に参加できない職員がいる等の課題もあったため、平成29年度については開催時間についても検討し、計画していく。

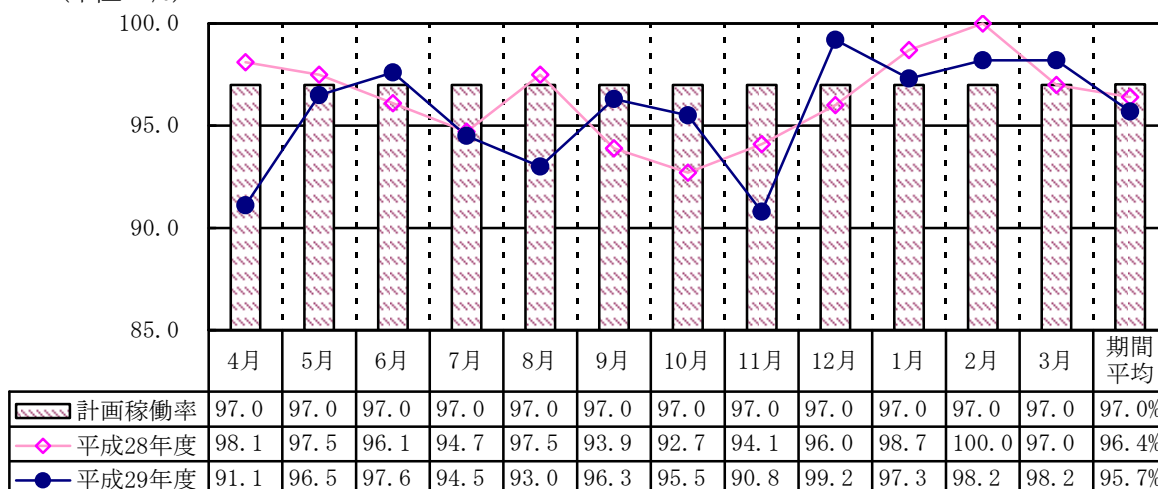
Ⅱ 平成29年度社会福祉法人東蒲原福社会 東蒲の里 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	9
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	13
3. 通所介護事業（デイサービス）	17
4. 東蒲の里研修報告	22
5. 東蒲の里ボランティア活動状況	24
6. 東蒲の里災害対策	25
7. 東蒲の里苦情受付・対応報告	26
8. 東蒲の里事故等発生状況報告	27

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,462日であったことから

$$\frac{17,462 \text{ 日}}{18,250 \text{ 日} \langle 50 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 0.9568 \quad \text{稼働率 } 95.7 \%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(平成30年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成28年度	2	1	10	23	14	3.92
平成29年度	2	0	8	24	16	4.04

3. 要介護度状態の変化(平成30年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	1人
維持	43人
悪化	6人
合計	50人

4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月17日	観 桜 会	・ベランダにて、施設玄関前の桜を観賞し、桜をバックに写真撮影を行った。また、桜を見ながら甘酒を飲んでいただいた。
7月7日	七 夕 会	・短冊に願いを書いて笹に飾り、七夕飾りと一緒に写真撮影を行った。
7月19日	納 涼 祭	・昼食バイキングや屋台での軽食サービス、また地域ボランティアの協力による出店や津川民謡保存会の歌と踊りを楽しんでいただいた。
8月13日	お 盆 供 養	・施設の仏間に十三仏の掛け軸を掛け、龍造寺住職よりお経を上げていただき、お盆供養を行った。
9月3日	敬 老 会	・式典と祝宴を行い、余興には『彩謡会』の歌と踊りで楽しんでいただいた。
12月17日	忘年会 クリスマス会	・昼食に寿司会食を行い、余興には、『いなば会』の歌と踊りで楽しんでいただいた。 ・職員がサンタクロースに仮装し、利用者にプレゼントを配った後、ケーキを食べていただいた。
1月1日～ 2日	お正月 お楽しみ会	・お楽しみ会として、お汁粉、甘酒を用意し、ご利用者に正月の雰囲気味わっていただいた。
1月15日	小正月	・ご利用者と職員と一緒に団子刺しを行い、楽しんでいただいた。
2月5日	節 分	・鬼に扮した職員が各居室や食堂を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3月5日	ひ な 祭 り	・雛壇を設置し、雛飾りの観賞と記念撮影を行ったあと、食堂においてケーキを食べていただいた。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の要望により、外食や買い物などの外出を随時行った。 ・阿賀町「狐の嫁入り」の花嫁花婿の訪問、地域のボランティアや小学生のボランティア訪問を通して地域との交流を図った。 ・阿賀町「狐の嫁入り」イベント会場への外出や津川地区等への外出を行い地域交流を図った。 ・8月14日に地域の花火大会が催され、施設正面玄関前に出て、スイカを食べながら花火見物を行った。

5. 事業報告(総括)

阿賀町のセーフティネットとしての役割を果たすと共にご利用者が地域と繋がりのある生活ができる施設を目指します。	
取組事項	<p>①ご利用者が安心して在宅生活を過ごせるよう、在宅入所相互利用と在宅でのケアの継続に取り組みます。</p> <p>②長期で短期入所生活介護を利用されている方や在宅生活が困難となっている方を把握するため、介護支援専門員や医療機関などからの情報収集に努め、在宅入所相互利用に繋がります。</p> <p>③地区行事を通じて、ご利用者と地域の皆様との触れ合いや交流の機会を増やします。</p>
実績	<p>①在宅サービスにおける援助内容の確認と自宅の生活環境を基に、機能訓練を実施し、ご利用者の歩行機能の向上につなげた。</p> <p>また、退所に向けて、喀痰吸引や褥瘡ケアなどの医療的ケアや口腔ケア、他の在宅サービスを、ご家族と確認し連携を図った。</p> <p>②居宅介護支援事業所に職員が出向き、資料を用いて説明をした。その結果、新たに2名のご利用者の利用に繋がった。</p> <p>③狐の嫁入り、地区の祭礼、各地区の敬老会へ参加した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 在宅入所相互利用について、居宅介護支援専門員に十分に理解されていないため、今後も積極的に周知活動を行います。

認知症の方が持つ不安や症状の改善を目指し、科学的ケアの理論に基づいて認知症ケアに取り組みます。	
取組事項	<p>①水分摂取量、定期的な排泄、日中の運動量の向上を目的とした科学的ケアや各種研修を通じて学んだことを、事業所内研修を通じて職員に周知し、職員の知識の向上に努めます。</p> <p>②利用者が安定した生活リズムで過ごすことができるよう、個々のご利用者に合わせた認知症ケアをケアプランに取り入れます。</p> <p>③認知症ケアの充実のため、専門性の高い職員を養成するよう認知症実践者研修や認知症リーダー研修など各種研修に参加します。</p>
実績	<p>①認知症実践者研修の復命会から、利用者の状態を把握するためのツールとして、「24時間シート」を用いて実践し、統一した対応を行った。</p>

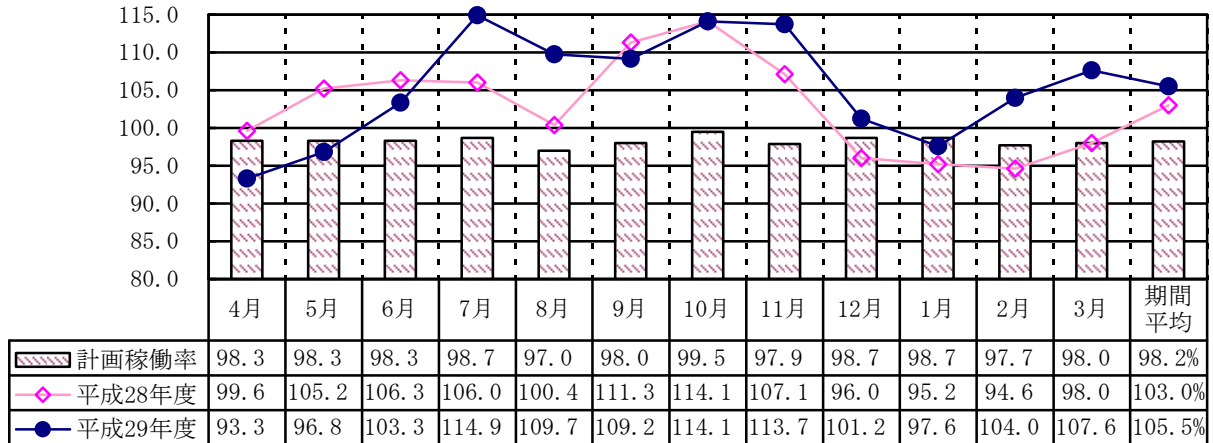
	<p>②ケアプランに水分を1日1500mlを摂取すること、鬱症状が見られるご利用者に意識的に声かけを行う援助内容を取り入れた。</p> <p>③認知症実践者研修に2名の職員が参加した。</p>
課題と今後の取組	<p>・30年度も、継続して認知症実践者研修と認知症リーダー研修に参加し、職員の専門性を高めます。</p>

<p>施設でのケア内容や取り組みについて情報発信することにより、ご家族との繋がりを多くするとともに、地域に開かれた施設を目指します。</p>	
取組事項	<p>①施設での取り組みを紹介する機会を設け、ご家族との交流を図ります。</p> <p>②地域に開かれた施設となるため、職員が地域サロン活動に参加する機会を増やします。また、より多くの地域住民と楽しめる施設行事を開催します。</p>
実績	<p>①施設での取り組み内容を取りまとめることができず、実施できなかった。</p> <p>②町内の2つの地区訪問に介護職員が参加し、認知症、高血圧の勉強会や関節や筋肉を動かす体操を実施した。 また、納涼祭において、80名近くの地域の方々とボランティアの方が来園された。</p>
課題と今後の取組	<p>・今後も、地域の方々から信頼されるよう、職員が各地区に訪問し、介護についてのアドバイスや制度を説明する機会を増やします。</p>

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(8人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が3,074日であったことから+

$$\frac{3,074 \text{ 日}}{2,920 \text{ 日} \langle 8 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 1.0527 \quad \text{稼働率 } 105.3 \%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

※稼働率が100%を超えている理由について

- ・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成28年度	4	35	4	692	611	724	441	500	3,011日
平成29年度	28	11	5	642	791	840	459	298	3,074日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	29	27	27	32	29	26	25	26	23	24	26	27	27人
延べ利用日数	224	240	246	285	272	262	283	273	251	242	233	263	256日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要 支 援		要 介 護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成 28 年度	1.00	3.53 日	2.85	8.88 日
平成 29 年度	0.97	1.54 日	2.71	9.75 日

5. 要介護度状態の変化(平成 30 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	0 人
維 持	3 人	23 人
悪 化	0 人	0 人
合 計	3 人	23 人

※障害短期入所 1 名を除く

6. 年間行事報告

園内行事については特養部門と合同で開催した。

7. 事業報告(総括)

介護、看護等の技術を活かしたケアを充実させ、ご本人やご家族が安心して生活を続けられるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①在宅生活における身体的不調や心理的症状の軽減を図るため、科学的ケアを実践します。 ②医療機関や他の福祉サービスと情報を共有します。そして他職種が持つ技術を充実させ協力しながら、心身のケアや医療的ケアに対応します。 ③法人内の在宅サービスの合同カンファレンスで情報を共有し、ケアを統一します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①科学的ケアの基礎的な理論に基づいて水分摂取や運動に関する取り組みを行った。 ②医療機関はじめ、他の福祉サービスとの情報共有や意見交換を行うことで、嚥下機能低下による誤嚥性肺炎を繰り返す可能性のある方、食事摂取量が減っている方、在宅酸素を使用している方など医療的ケアが必要な方のご利用時に、統一したケアを行うことができた。 ③毎月、法人内の在宅サービスの合同カンファを開催し、法人内のサービスを利用する方に統一したケアを提供することができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアに重点を置いた取り組みを継続すると共に、身体機能の維持、改善のため、在宅で不足しがちな水分や食事摂取に関するケアに努めます。

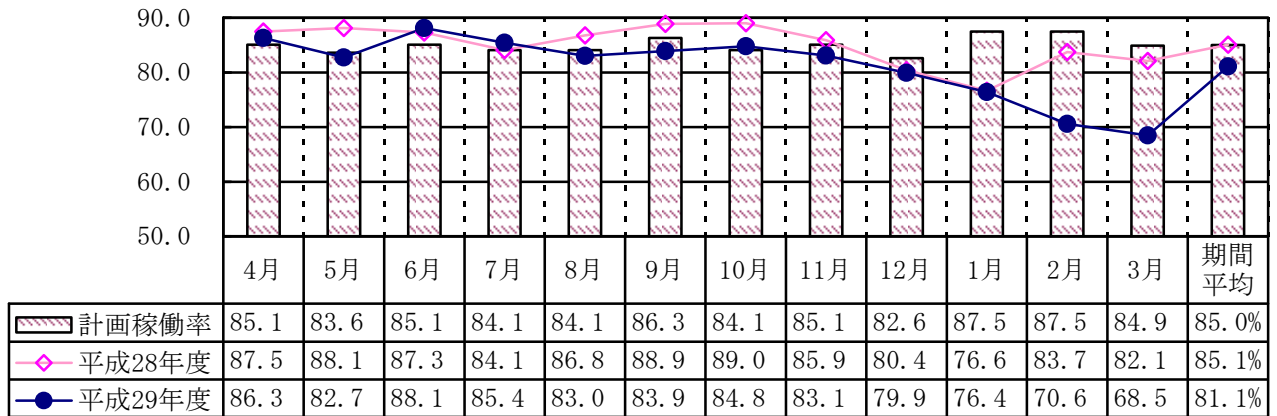
地域住民や利用者家族へ情報発信し、互いに協力し合える関係作りに取り組みます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①デイサービスやショートステイを利用されているご家族との意見交換会を、定期的で開催します。 ②ご利用者の外出や地域行事への参加を通し、住民との交流を深め、情報の交換を行います。 ③地域住民へ情報発信するため、施設での取り組みを紹介するミニ通信の作成を行い、広報活動に取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①デイサービスと合同で勉強会(給食試食会や介護技術に関する勉強会)を開催し、ご家族との意見交換を行った。 ②狐の嫁入りイベントへの参加や施設内の行事で地域住民との交流が図れた。また、津川地区の打ち上げ花火を、施設の正面玄関前でスイカを食べながら鑑賞をした。 ③定期的にご利用者家族に向けて施設での様子や行事の写真を掲載したミニ通信の発行を行った。

課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none">• ご家族との交流会を実施し、ご家族が抱えている介護に関する悩みや相談を共有し、互いに協力して解決できる関係作りに取り組みます。• 地域行事への参加を増やし、住民との交流の機会を通し、情報の発信と広報活動に取り組みます。
----------	---

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

通所介護事業の1日定員(25人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が7,342日であったことから

$$\frac{7,342 \text{ 日 (延べ利用日数)}}{9,050 \text{ 日 (定員) } \times 362 \text{ 日 (実稼働日数)}} = 0.8112 \quad \text{稼働率 } 81.1\%$$

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成28年度	495	727	902	893	1,447	1,172	1,181	884	7,701日
平成29年度	470	524	687	1,399	1,251	1,033	1,222	756	7,342日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	83	84	90	85	85	84	83	87	83	78	76	70	82人
延べ利用日数	647	641	661	662	643	629	657	623	619	535	494	531	612日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成28年度	1.48	6.19日	2.96	8.21日
平成29年度	1.51	6.84日	2.63	7.73日

5. 要介護度状態の変化(平成 30 年 3 月にご利用されている方を対象としています)

内 容	要支援	要介護
改 善	0 人	4 人
維 持	10 人	37 人
悪 化	3 人	10 人
合 計	13 人	51 人

※基準該当 6 名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月17日 ～23日	観 桜 会	・デイサービスフロアにて抹茶を頂きながらお花見を行った。
5月22日 ～28日	バスハイク	・町内のスーパーへの買い物やハーバルパークへ出かけ新緑を見て楽しまれた。
6月27日	意見交換会 (試食会)	・東蒲の里で提供している食事についての説明と実際に食べていただきながら意見交換を行った。
7月3日 ～9日	七 夕 会	・ひまわり保育園の園児の演奏を楽しまれた。また、短冊に願い事を書いていただいた。
7月31日 ～8月6日	軽食づくり	・季節感を感じていただけるよう、かき氷を作り食べられた。
9月11日 ～17日	敬 老 会	・1週間式典とプレゼント贈呈、曜日毎にボランティアや職員による余興を楽しんでいただいた。
9月27日	家族意見交換会	・在宅における介護リスク管理や安全な介護方法について個別毎に相談・指導を行った。
11月1日 ～14日	バスハイク	・赤崎山や麒麟山公園などに出かけ紅葉を鑑賞し楽しまれた。
11月11日 ～17日	作 品 展	・町内の他の施設と一緒に展示された作品を見て楽しまれた。
12月21日 ～27日	忘 年 会	・日替わりでボランティアや職員の余興を披露した。最終日には皆さんと餅つきを行った。
1月10日	団子さし	・皆さんで団子を丸めたり装飾品を飾って楽しまれた。
1月31日 ～2月6日	節 分	・職員が鬼に扮し豆まきをして楽しんでいただいた。

7. 事業報告(総括)

相談会や地域活動を通してご家族や地域の方々に介護に関する情報を発信していきます。また、デイサービスを理解していただけるよう活動内容を紹介していきます。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① デイサービスやショートステイを利用されているご家族を対象とした意見交換会や勉強会を定期的に行い、家族から寄せられた介護に関する悩みなどを解決できるよう情報を提供します。 ② サロンや地域活動に参加し、地域交流の機会をつくとともに、地域ニーズに合わせた情報を発信していきます。 ③ 相談会や地域活動を通じて活動内容を紹介し広報活動に取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 6月、9月、12月に意見交換会を開催し在宅での介護の不安や質問、ご家族同志の意見交換を行うことができた。 ② 地域訪問2件に参加した。地域に訪問し予防体操の指導や高血圧、認知症についての説明を行った。 ③ 地域訪問や意見交換会にて介護に関する情報発信やデイサービスで行っている体操を実際に体験していただいた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換会について、地域の皆様にも参加していただけるよう開催方法等の検討を行います。 ・ 地域の皆様にとって有益と思われる、介護予防や認知症予防に関する知識を提供します。

介護現場における職員の専門性の向上を図るとともに、ご利用者一人ひとりとの関わり方を見直します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症ケアや自立支援介護の勉強会を実施し、科学的根拠のあるサービスが提供できるようケアの方法を見直します。 ② 法人内の在宅サービスで合同カンファレンスを開催しケアの統一を図るとともに、必要時に情報交換を行うことで、利用者の変化に柔軟に対応します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症ケア、メンタルサポート、機能訓練の基本的な考え、リスク管理を踏まえた介護技術について勉強会を開催した。 ② 法人内で定期的に合同カンファレンスを開催し事業所間で情報を共有することで統一したケアを提供することができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護に関する知識や技術を身に付けたうえで、家族や利用者に対しての相談・援助方法について検討していく。

<p>安心した在宅生活が継続できるよう、利用者個々のニーズや家族が抱える悩みなどに対して各職種がそれぞれの専門性を活かした支援を行います。</p>	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①ご利用者やご家族の状況に合わせた利用方法を提案するとともに、状態の変化に合わせ、スムーズに利用ができるよう相談支援を行います。 ②健康管理において、関係機関と連携を図るとともに、ご利用者個々に必要なアドバイスや指導を行います。 ③入院中に行った機能訓練を継続的に行えるよう関係機関と連携を図ります。また、利用者個々の状態に合わせた予防的視点での機能訓練の実施と自宅でも訓練が継続できるよう支援を行います。 ④ご家族が安心・安全に在宅介護ができるよう個々の状態に合わせた相談、指導を行います。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①ご利用者やご家族の状況変化に合わせた利用方法を提案し変更後も無理なく利用していただくことができた。 ②利用中の体調変化を早期に発見し、早目の受診と医療機関への情報提供を行い、ご利用者の健康維持に繋げることができた。 ③退院時のカンファレンスの参加により退院後も継続的な機能訓練の実施が行えた。また、自宅での機能訓練においてもご家族の要望を確認しながら指導を行った。 ④褥瘡予防や排泄援助、ベッド周りの環境整備等、個別に相談・指導を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や訪問介護への情報提供と連携によりスムーズに対応することで、ご利用者とご家族の安心感に繋がった。このことから、今後も継続して取り組みご利用者の状態とご家族の希望に合わせたスムーズな対応ができるよう継続して取り組みます。 ・機能訓練指導員の自宅訪問ではご家族とのスケジュール調整が難しかったため、訪問方法について再検討を行います。また、自宅の環境に合わせた指導、アドバイスを継続的に実施します。 ・ご家族が相談しやすいと感じていただけるよう、送迎時等の情報共有を通して信頼関係を築きます。また、的確なアドバイスができるよう介護職員の指導を行います。

4 東蒲の里研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項目	内容	主な研修
技術向上 人材育成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び対人援助職に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	認知症介護実践者研修
		福祉サービスに関する苦情受付担当者研修
		医療的ケア職員講習会
		社会福祉施設新任職員研修
		強度行動障害支援者養成研修
		関東ブロック老人福祉施設研究総会
		新潟県サービス管理責任者及び自動発達支援管理責任者研修
		褥瘡ケアとスキンケアの実際
		記録書き方研修
経営戦略セミナー		

2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
平成 29 年 5 月 17 日 平成 29 年 5 月 24 日	高齢者に多い疾患について 緊急時の対応について 感染症、食中毒の予防について	49	47	95.9
平成 29 年 6 月 21 日 平成 29 年 6 月 28 日	救急法 1 時間コース 危険予知トレーニング	49	46	93.9
平成 29 年 7 月 26 日	口腔ケアについて 熱中症について 危険予知トレーニング	48	29	60.4
平成 29 年 8 月 24 日	緊急時の事故対応について 事故の分析について 危険予知トレーニング	48	30	62.5
平成 29 年 9 月 27 日	メンタルヘルスについて 危険予知トレーニング	48	30	62.5
平成 29 年 11 月 15 日 平成 29 年 11 月 22 日	復命会(2 件) 看取り介護について 危険予知トレーニング	48	45	93.8
平成 29 年 12 月 14 日	個人情報について プライバシー保護について	48	36	75.0

	苦情について 危険予知トレーニング			
平成 30 年 1 月 24 日	法令遵守について 褥瘡ケアについて 腰痛予防について 危険予知トレーニング	48	25	52.1
平成 30 年 2 月 21 日	法令遵守について 事故事例の検討、検証について 危険予知トレーニング	48	31	64.6
平成 30 年 3 月 7 日	3 年目研修の発表会 危険予知トレーニング	48	30	62.5

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

- ・認知症実践者研修、喀痰吸引研修や褥瘡ケアなどの研修に参加し、職員の資格取得、技術の習得に努め、内部研修において、その内容を復命した。
- ・平成 30 年度の新規事業開始、また、各種制度改正に対応するため、新潟県や全国老人福祉施設協議会が主催する研修会に参加した。

② 内部研修

- ・平成 29 年度は、より多くの職員が参加できるよう、月 2 回、開催日を設けた。2 回開催した月の出席率は 90%に達しているが、その他の月の出席率は低下している。

5 東蒲の里 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
4月	・清拭たたみ	9
5月	・清拭たたみ ・利用者との談話	7
6月	・清拭たたみ	2
7月	・清拭たたみ ・七夕余興・利用者との 談話 ・納涼祭余興とお手伝い	46
8月	・清拭たたみ	3
9月	・清拭たたみ ・敬老会余興 ・利用者との談話	51
10月	・清拭たたみ ・利用者との談話	7
12月	・清拭たたみ ・忘年会、クリスマス会	36
合計		161人

6 東蒲の里 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
7月13日	緊急伝達訓練 ・夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。	48名 (職員)
9月8日	夜間想定避難訓練 ・阿賀町消防本部立ち会いのもと、夜間実際に職員を招集し、車いすやベッドを利用者に見立てて、避難誘導を実施した。	10名 (職員)
10月23日	県立津川病院との合同避難訓練(日中想定)	19名 (職員)

2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
5月29日	阿賀町消防本部による立ち入り検査 ・施設内部の立ち入り検査を受けた。
5月29日	契約業者による消防設備の点検 ・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
1月11日	契約業者による消防設備の点検 ・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

7 東蒲の里 苦情受付・対応報告

苦 情

<短期>

1. 利用者家族より

家族から連携ノートに、「母の髪を切っていただいたようで、ありがとうございました。ただし事前の連絡や家族への確認がなかった為、ビックリしました。「切って頂く」が「切られた」と感じる事もあります。カットする日が決まっていれば教えて下さい。

実は来月母は90歳の誕生日を迎えます。その時に髪をセットして記念撮影でもしようと髪を伸ばしていました。

ご厚意はありがたいですが、次回は知らせて下さい。」

と記載されていた。

・施設に来園している理髪店が特養利用者と間違えて、髪を切ってしまった。短期と特養の理髪の日を分け、利用者の間違えを予防し、また、サービス利用中に理髪の希望がる利用者だけ行うよう連絡した。
 <要因:サービスの質>

<特養>

2. 利用者家族より

利用者のご家族から面会時に、「ここ1～2年介護の質が落ちているのではないか。母の爪がのびていたので私が爪を切った。前に来たときも爪がのびていた。ダンスの中は前回来たときは、丸められて入っていたが、今日はきれいだった。母の部屋に男性が入居している。連絡はきていない。前に来たときも男性がいたが、その時は緊急で入ったのかなと思っていた。」

・ご家族に対して謝罪を行った。
 ・爪切りについて、毎月第2週と第4週に利用者の爪を切ることにしていたが、そのご利用者は毎日、手浴を行っているため、その際に爪が伸びていたら切ることとした。
 ・ダンスの整理は、ご利用者の着替えの都度、確認を行い、居室については、利用予定を確認しながら、男女が同室にならないように周知した。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

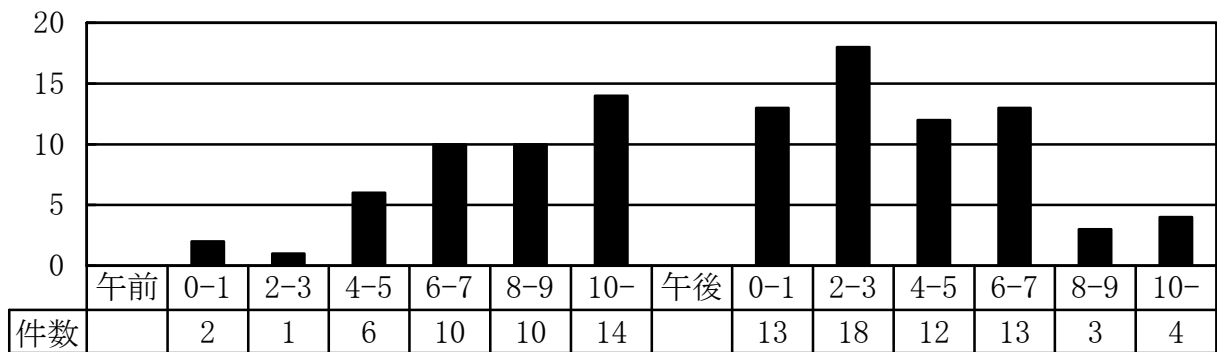
事業	件数
特 養	1 件
短期入所	1 件
通所介護	0 件
合 計	2 件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0 件
職 員 の 態 度	0 件
サ ー ビ ス の 質	2 件
サ ー ビ ス の 量	0 件
権 利 侵 害	0 件
そ の 他	0 件
合 計	2 件

8 東蒲の里 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 106 件〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	54件
食堂・ダイニング	28件
トイレ	7件
廊下・玄関	3件
浴室	5件
施設外	5件
その他	4件
合計	106件

3. 内容別発生件数

事故内容	件数
転倒・転落	58件
裂傷・火傷	2件
打撲・皮下出血	15件
チューブ抜去	2件
私物紛失	6件
無断外出	5件
異食・誤飲	6件
誤薬	2件
車輛事故	4件
その他	6件
合計	106件

4. 事故報告

- ・平成28年度と比較して、発生件数が減少した（平成28年度145件）。前年度に比べて午前の「8時台から9時台」「10時台から11時台」の事故が減っており、毎月の施設内研修において、継続的に取り組んでいる「危険予知トレーニング」の成果と思われる。

Ⅲ 平成29年度社会福祉法人東蒲原福社会

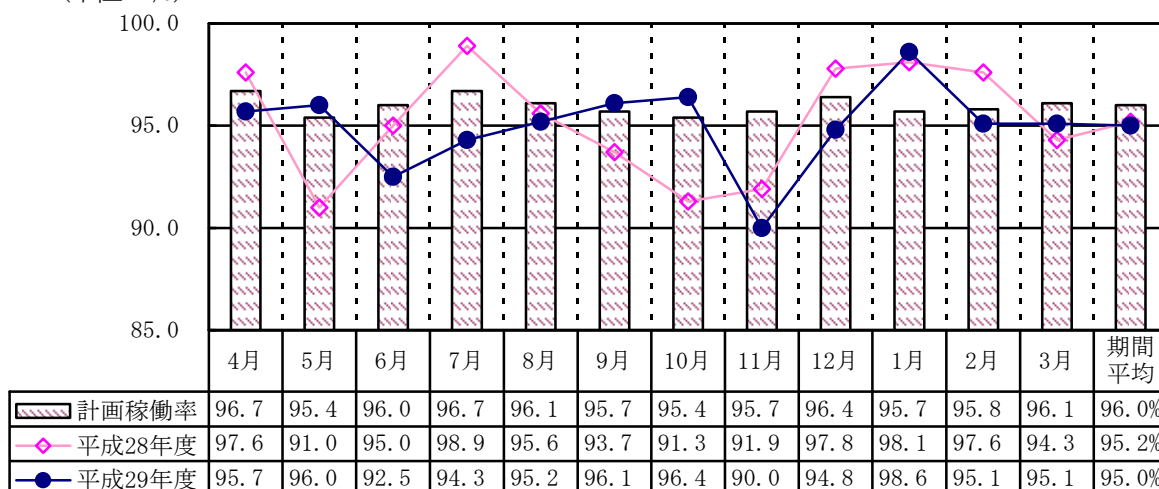
東蒲の里みかわ園 事業報告

	頁
1. 介護老人福祉施設（特 養）	29
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	33
3. 通所介護事業（デイサービス）	37
4. 通所型サービスA（基準緩和型）	41
5. 高齢者生活支援ハウス	42
6. 新潟水俣リハビリモデル事業	43
7. 外出支援サービス事業	43
8. 東蒲の里みかわ園研修報告	44
9. 東蒲の里みかわ園ボランティア活動状況	46
10. 東蒲の里みかわ園災害対策	47
11. 東蒲の里みかわ園苦情受付・対応報告	48
12. 東蒲の里みかわ園事故等発生状況報告	49

1 介護老人福祉施設

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・介護老人福祉施設の1日定員(50人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が17,336日であったことから

$$\frac{17,336 \text{ 日}}{18,250 \text{ 日 (50人} \times 365 \text{ 日)}} = 0.9499 \quad \text{稼働率 } 95.0 \%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(平成30年3月31日現在)

	要介護度					平均
	1	2	3	4	5	
平成28年度	1	2	9	19	19	4.06
平成29年度	0	2	6	20	22	4.24

3. 要介護度状態の変化(平成30年3月31日にご利用されている方を対象としています。)

内容	要介護
改善	1人
維持	41人
悪化	9人
合計	50人

4. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4月17日 28日	花 見	・阿賀町内、阿賀野市内の桜を見に行き、季節を感じていただいた。
6月26日	笹団子作り	・白玉粉と豆腐を使って生地抹茶を練りこんだ笹団子風の団子を食べて楽しんでいただいた。
7月7日	七 夕 会	・短冊に願いを書いて笹に飾り、七夕飾りと一緒に記念撮影を行った。
7月30日	三 涼 祭	・地域のボランティアの方に多数来園していただき、屋台などの催し物や津川民謡愛好会による太鼓と踊りで楽しんでいただいた。
9月24日	敬 老 会	・式典及び祝宴を行い、余興では民謡や踊りで楽しんでいただいた。
12月10日	忘 年 会	・会食を行い、職員がサンタクロースに扮し、ご利用者にプレゼントを贈った。
12月22日	そば打ち	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを食べていただいた。
2月2日	節 分	・職員が鬼に扮して豆まきを楽しんでいただいた。
3月3日	ひな祭り	・甘酒とケーキを楽しんでいただいた。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・吉津地区「観桜会」に参加(4月30日) ・新発田市のボランティア(チーム・アイビー)による演歌、歌謡曲(5月11日) ・フラダンスボランティアによるダンス(5月23日) ・ハーバルパークにバスハイク(6月21日) ・津川地区の祭りに参加(8月25日) ・あが野ニュータウンの祭りに参加(10月14日) ・ふれあいホットコンサート ～フルートとハーブの生演奏～ (10月30日) ・出前講座 ～三味線の生演奏～ (11月16日)

5. 事業報告(総括)

職員が認知症への理解を深め、ご利用者それぞれが自分らしくいつまでも生き生きと輝いていけるよう支援します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護力向上研修会で得たノウハウを活かして、ご利用者個々の状態を分析し、根拠に基づいた介護を実践します。 ② ご利用者の体調が安定し、笑顔で過ごせるよう医療的ケアの質の向上に取り組みます。 ③ 認知症の方が自分らしく生活を送れるよう、思い出に浸れる居室空間や、安心して過ごせ交流できる談話空間を整備します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 介護力研修で得た知識を活用し、ご利用者一人ひとりにとって何が必要であるか、日々職員間で検討し、それを周知して実施した。 ② 高齢に伴う体調の悪化や、既往の病気による入院、風邪症状などがあったが、感染症の蔓延を防ぎ、体調の安定に向けて看護師との連携を図ることができていた。 ③ 身体状態に応じた居室のレイアウトや、離床時の席の配置について、ご利用者の意向、生活背景を考慮しながら取り組むことができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取の必要性など、職員間で定着しているが、運動や、生活動作訓練に関して細やかな援助が不足していた。今後は体力維持のために、効果的な取り組みを検討し行っていく。 ・入退所による利用者の入れ替わりで、居室や談話室での環境の変化が感じられたことが多かったため、今後はご利用者が混乱せずに、安心できる生活空間で過ごしていただけるよう配慮していく。

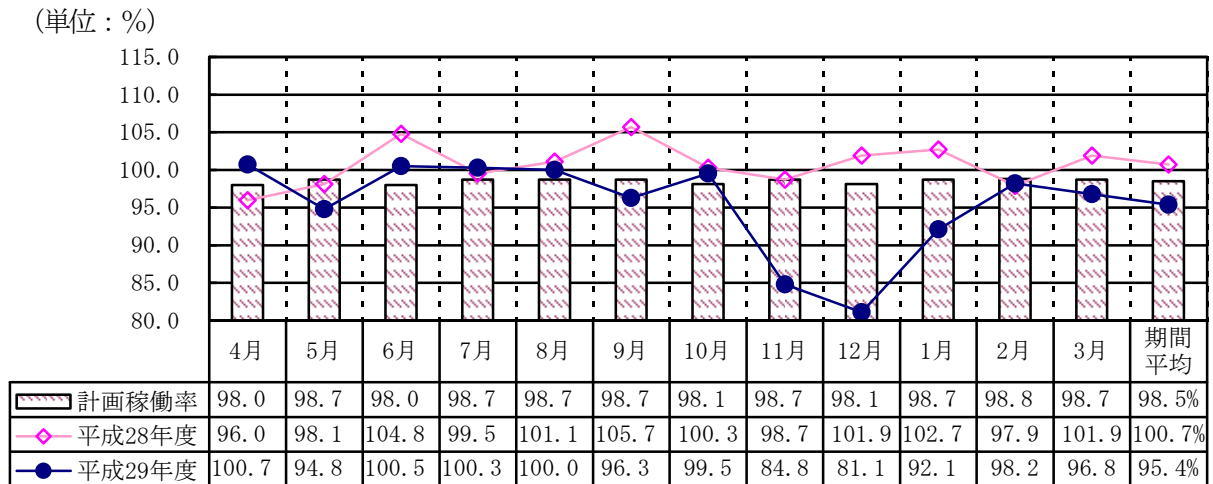
近隣地域と繋がり、開かれた施設を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域で開催されるサロンなどに各専門職が参加し、施設で取り組んでいることを紹介します。 ② ご利用者が地域の一員であることを感じられるよう、各地域の行事に参加します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域のサロンへの参加については、施設人員の不足や、必要業務に伴う日程調整がつかなかったことで取り組むことが出来なかった。 ② 観桜会や各地区の祭りイベントへの参加、バスハイクなどを企画し実施した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりにサロン活動などへの参加ができなかった為、次年度は、参加できるよう計画していく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・外出の機会を多く設けることができなかつたが、今後もご利用者の気分転換や喜び、楽しみが増えるよう援助していく。
--	---

ご利用者それぞれの疾病の再発予防につとめます。	
取 組 事 項	① 体調を崩して入院される方を減らすため、疾病の特徴を分析し適切な予防策を徹底して実践します。
実 績	<p>① 利用者の高齢化による身体状況の変化もあり、防ぎきれない病状もあったが、入院の原因として多く上がる、誤嚥性肺炎、尿路感染、心不全の症状と予防策について、利用者個々に応じたケアを看護職員から介護職員へ周知し、取り組みを行った。</p> <p>また、入院を防ぐため、多職種で観察を行ない、介護職員からの「いつもと違う」の気づきにより、嘱託医の診察や早めの受診を行い早期対応に勤めた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も利用者個々の疾病への理解を深め、ケア検討と周知、実践を継続し、再発予防、入院の長期化を防いでいく。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率



※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(20人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1年間の延べ利用日数が6,970日であったことから

$$\frac{6,970 \text{ 日}}{7,300 \text{ 日} \langle 20 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 0.9547 \quad \text{稼働率 } 95.4\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

※稼働率が100%を超えている理由について

- ・特養部門において入院者がいた場合に、そのベッドを使用して、短期入所のキャンセル待ちの利用者を受け入れたことで、稼働率が100%を超えている状況です。

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成28年度	55	90	19	1,429	1,673	1,095	1,892	1,101	7,354日
平成29年度	114	193	18	1,614	837	1,083	1,654	1,457	6,970日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	41	42	40	44	43	43	47	46	42	42	42	38	43人
延べ利用日数	604	588	603	622	620	578	593	523	496	613	548	582	581日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成28年度	1.14	5.19日	2.93	11.69日
平成29年度	1.15	5.14日	3.02	13.18日

5. 要介護度状態の変化(平成30年3月にご利用されている方を対象としています。)

内容	要支援	要介護
改善	0人	4人
維持	1人	27人
悪化	4人	2人
合計	5人	33人

6. 年間行事報告

月別	実施行事	内容
4月24日	お花見 バスハイク	・城山公園で花見を楽しんでいただいた。
7月17日	出前食事会	・地域の食堂から出前を頼み、ラーメンや丼物を楽しんでいただいた。
10月14日	あが野ニュータウン ふれあいフェスタ	・地域行事に参加し、住民の皆さんと談話を楽しみながら料理を美味しくいただいた。
10月18日	芋煮会	・ご利用者と一緒に下準備、調理を行い、皆さんで食べていただいた。
11月15日	バスハイク	・赤湯のはなみずき(食堂)で釜飯を食べ、津川地区で買い物を楽しんだ。
12月22日 26日 28日	そば打ち会	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを振る舞った。
2月3日	節分	・職員が鬼に扮して、豆まきを行い楽しんでいただいた。
3月2日	ひな祭り	・ケーキを食べ、歌を歌うなどして楽しんだ
3月5日	まんじゅう作り	・ご利用者と職員が協力してまんじゅう作りを行い皆さんで食べていただいた。
その他		・夏祭り、敬老会については特養部門と合同で開催した。

7. 事業報告(総括)

ご利用者から選ばれる施設を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 関係事業所への定期的な訪問と報告、また担当者会議へ積極的に出席し活動内容を紹介します。 ② 機能訓練や生活リハビリ、また外出やご家族も参加できる行事等を実施し、ご利用者が元気で笑顔になれる援助活動に取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 病院の担当者と随時情報交換を行い、また担当介護職員がサービス担当者会議へ参加して、活動の内容を紹介してきたことで、退院後の利用希望や新規利用者の増加に繋がった。 ② ご家族との交流会を企画したが感染症の流行などにより実施できなかった。 機能訓練を継続してきたことで、利用当初は車椅子への移乗が全介助であった方が、現在では見守り一部介助で行えるように改善している。 行事については、お花見や買い物、地域行事への参加などを行いご利用者に楽しんでいただいた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も関係機関との連携を密に行い、援助内容や活動を理解していただき、選ばれるサービスになるよう取り組んでいく。 ・ 次年度は、ご家族との交流会の時期を再検討して企画を行なっていく。 ・ 機能訓練指導員が不在の日は、訓練が実施できなかったため、他の職員が継続して行なえるよう業務や職員体制の検討を行なっていく

心のこもった基本的ケアの徹底。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① サービスの自己評価を行い、援助方法の確認と見直しを行ないます。 ② 施設内外の研修等に積極的に参加し、その内容を共有して職員全体のスキルアップと専門性の向上に取り組みます。 ③ 重度の方や見取り介護を希望される方のニーズに対応できるよう、事業所内研修を実施し喀痰吸引等、介護職員の医療的ケアの質の向上に取り組みます。 ④ アクティビティや機能訓練について併設のデイサービスと共通利用されているご利用者に、一体的な援助が出来るよう連携して取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 心のこもったケアを職員で徹底し、気づきや傾聴態度、笑顔などの自己評価を行い、自身の業務を振り返る機会をつくることができた。

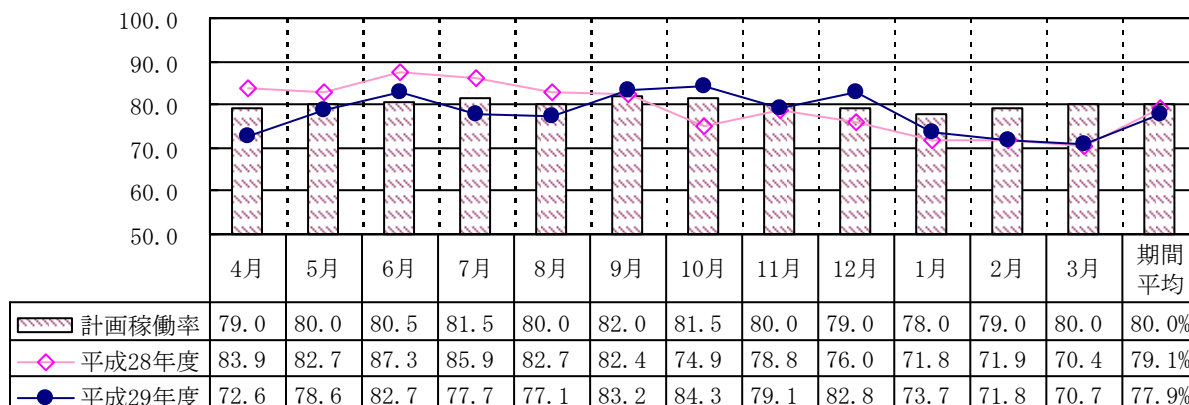
	<p>② 施設内外の研修会に積極的に参加でき、知識や技術を学んだが、職員同士で情報共有する機会を十分作ることが出来なかった。</p> <p>③ 医療的ケア・喀痰吸引について、担当看護師による事業内研修を行い注意点などの再確認を行なった</p> <p>④ デイサービスとの合同会議を実施し、共通利用している方の利用時の情報交換や、援助方法の確認を行い、また業務を効率的に行なえるよう協力体制を組み直した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続して業務を振り返る機会を作り、サービスの質が向上できるように取り組んでいく。 ・ 毎月のグループ会議等で、研修で学んだ知識や技術を共有できるよう時間を設ける。 ・ 今後も、医療的ケアが必要なご利用者の対応力向上に向けて、各職種が連携して実績を積み重ねていく。 ・ 今後も、デイサービスと共通するご利用者を効果的かつ継続的に訓練や援助ができるよう連携して取り組んでいく。

介護事故の防止。	
取組事項	① ヒアリハット報告から、予防策、改善策を導き出して実践し、サービス利用中の事故を減らす取組みを行ないます。
実績	<p>① 事故権利擁護委員会と協力して、報告様式の見直しを行い書きやすく改善し、より多くの報告が上がるよう周知を行った。</p> <p>各ご利用者の行動に伴う、事故の危険性を毎月の会議で話し合い対応策を統一して実施した。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告様式を検討改善したが、報告件数は伸びなかったため、次年度も再検討していく。 ・ 受診が必要な事故は減っているため、今後も毎月、対策の統一を図っていく。

3 通所介護事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

・通所介護事業の1日定員(22人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。

1年間の延べ利用日数が6,209日であったことから

$$6,209 \text{ 日} \div 7,964 \text{ 日} (22 \text{ 人} \times 362 \text{ 日}) = 0.7796 \quad \text{稼働率 } 77.9\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別利用延べ日数

	障害	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成28年度	35	298	270	2,111	1,475	578	818	717	6,302日
平成29年度	41	351	329	2,677	1,221	262	489	839	6,209日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	61	63	66	62	66	67	66	63	64	63	56	62	63人
延べ利用日数	479	536	546	530	529	549	575	522	565	454	442	482	517日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成28年度	1.48	4.91日	2.41	8.17日
平成29年度	1.48	5.60日	2.17	7.28日

5. 要介護度状態の変化(平成 30 年 3 月にご利用されている方を対象としています。)

内 容	要支援	要介護
改 善	2 人	3 人
維 持	10 人	44 人
悪 化	0 人	2 人
合 計	12 人	49 人

※基準該当 1 名を除く

6. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
7 月 23 日	利用者ご家族との交流会	・ご家族に対し熱中症の勉強会、機能訓練体験、意見交換会を行い、サービス内容を体験していただいた。
8 月 4 日 ～ 7 日	合同夏祭り	・ご利用者の皆さんに屋台や御輿、ゲーム景品など、夏祭りの雰囲気を感じていただいた。
10 月 18 日	芋煮会	・ご利用者と一緒の下準備、調理を行い、皆さんで食べていただいた。
11 月 19 日	利用者ご家族との交流会	・ご家族に対し感染症の勉強会、ホットパック、認知予防トレーニング体験を行い、交流を図った。
12 月 22 日 ～28 日	そば打ち会	・職員がそば打ちを行い、ご利用者に年越しそばを振る舞った。
2 月 3 日	節分	・職員が鬼に扮して、豆まきを行い楽しんでいただいた。
3 月 2 日	ひな祭り	・ケーキを食べ、歌を歌うなどして楽しんだ

7. 事業報告(総括)

ご利用者及びご家族の在宅生活を支え、生活環境が改善するよう、特色あるリハビリを実施します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 奥山理学療法士の指導を継続し、計画立案するとともに「温熱療法」に取り組むことで疼痛を緩和し、リハビリの効果が上がるよう支援します。 ② リハビリの目的や効果について、ご利用者やご家族に説明を行い、意欲的に機能訓練を実施できるよう支援し、取り組みます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① グループ会議にて、機能訓練メニューや温熱療法の知識、実施方法、個別の留意点について研修を行い全職員に周知して取り組んだ。 ② リハビリ開始時にタブレットを使用し、リハビリ内容の紹介をご家族に実施した。実際に映像を見ることで、分かりやすくて良いと評価をいただいた。機能訓練実施前後の歩行状態を撮影することで理学療法士が比較して見ることができ、評価から訓練実施に繋ぐサイクルを確立した。また、理学療法士の評価、指導を継続して受けてきたことで、ご利用者は意欲的に取り組み、状態維持や改善に繋がっている方が増えている。 ③ ホットパック導入による温熱療法においては、対象者に個人差はあったが、痛みや痺れの軽減を実感していただき、訓練をスムーズに進めることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士の指導を元に、次年度も事業所内研修を行い、全職員が機能訓練の知識や技術の向上に取り組んでいく。 ・次年度は理学療法士に訓練を指導していただく対象者を増やし、より多くの方が状態改善できるよう取り組んでいく。

認知症ケアの質を高め、生活能力や意欲を向上させる支援を行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 在宅での生活を継続できるように、認知症実践者研修で得た知識を生かして、症状別の根拠に基づいた認知症ケアや専門的な関わり方を実践します。 ② ご利用者の認知症状に対応し、ご利用者が目的や役割を持つことで自立を促し、継続して取り組むことができるアクティビティ活動を提供します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ① 認知症ケア「関わり方について」事業所で研修会を開催した。認知症対象者への取り組みとして、相手の気持ちや感情をやわらげる会話や、話を聴こうとする姿勢を心がけ、また、ご利用者がコミュニケーションをとりやすい環境をつくり、落ち着いて過ごせるよう取り組んだ。

	② 利用者個々の状態や意欲、嗜好に配慮して、認知能力機能訓練(脳活性化トレーニング)、創作活動、機能訓練器具等を活用し、集中して実施できる時間をつくったことで、落ち着かない等の行動が減少し、また徐々に注意力、集中力、記憶力の向上が見られ、認知症の症状が緩和する効果があった。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、個々の目標を設定し、訓練内容の選択肢を増やし、また機能訓練の効果等の広報活動に取り組み、新規利用者を増やしていく。 ・ 今後も、職員が研修会に参加し、認知症対応の専門性を高め、認知症ケア加算の算定に向け取り組む。

利用者が安心して利用できるよう、ご家族との連携を深める取り組みを行います。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 関係機関へ訪問し、実践しているサービスや活動をわかりやすく発信して、利用者確保に取り組みます。 ② 中・重度の利用者とそのご家族に対しコミュニケーションを大切にし、精神的支援を行いながら、活動状況の報告や情報交換を行います。 ③ 併設のショートステイおよび法人内事業所と連携を深め、一人ひとりのご利用者に連動したサービスを行います。
実績	<ol style="list-style-type: none"> ① ケアマネ事業所に対し、体験利用の案内配布を行い、また新規利用希望者に、訓練の様子や入浴介助の様子等、サービス利用の前に情報提供したことで、安心してご利用していただくことができた。 ② ご家族から自宅での様子を聞き取り、ご利用者のADLの変化、健康面や不適応行動、機能訓練、介護方法に関する相談を受け、職員が助言、提案を行ったことで問題の早期発見に繋がった。またご家族の不安を軽減することができ、信頼関係を築くことができる機会となった。 ③ 在宅サービス連携会議において、ショートステイ、訪問介護事業所と利用者援助に関する課題や改善点を取りまとめ、目標の共有を図り、連携したサービスに取り組んだ。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族交流会や意見交換会の開催を計画したが、企画時期が遅く、感染症予防の観点から実施することができなかつたため、時期を早めて計画する。 ・ 在宅生活に役立つ機能訓練ができるよう、担当職員が定期的に在宅へ訪問し、ご家族と情報共有ができる体制を作る。

4 通所型サービス A(基準緩和型)

1. 通所型サービス利用状況

	新規登録者数	登録者数	登録終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
4月	0	0	0	0	0	0
5月	14	14	0	3	33	11.0
6月	1	15	2	4	41	10.3
7月	0	13	1	4	34	8.5
8月	0	12	0	4	39	9.8
9月	0	12	1	4	41	10.3
10月	1	11	0	4	38	9.5
11月	0	12	0	4	30	7.5
12月	0	12	0	4	37	9.3
1月	0	12	2	3	30	10.0
2月	0	10	0	4	30	7.5
3月	0	10	0	3	31	10.3
年間統計	16人		6人	41日	384人	9.4人

5 高齢者生活支援ハウス

1. 生活支援ハウス利用状況

	新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数		新規 入居者数	退居者数	月間 入居者数
4月	0	0	6	10月	0	0	6
5月	0	0	6	11月	0	0	6
6月	0	0	6	12月	0	0	6
7月	0	0	6	1月	0	0	6
8月	0	0	6	2月	0	0	6
9月	0	0	6	3月	1	0	7
				合計	1人	0人	73人

2. 年間行事・交流会

入居者同士の交流やみかわ園の利用者、地域との交流のため、行事企画や参加を支援した。

月 日	行 事
7月 1日	七夕茶話会
7月 24日	みかわ園三涼祭
9月 10日	阿賀町敬老会参加
9月 23日	支援ハウス敬老会
12月 18日	クリスマス・忘年会
2月 3日	節分
3月 3日	ひな祭り食事会

3. 介護サービス利用状況

利用介護サービス	利用入居者数
デイケア	1人
デイサービス・訪問介護	1人

6 新潟水俣リハビリモデル事業

1. 通所型サービス利用状況

	新規登録者数	登録者数	登録終了者数	事業日数	延べ利用者数	1日平均利用者数
9月	12	12	1	4	41	10.3
10月	0	11	0	8	58	7.3
11月	0	11	0	9	59	6.6
12月	0	11	0	8	44	5.5
1月	0	11	2	8	49	6.1
2月	0	9	0	8	51	6.4
3月	0	9	0	9	51	5.7
年間統計	12人		3人	54日	353人	6.5人

7 外出支援サービス事業

1. 外出支援事業利用状況

平成29年度実績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間実績
利用件数		4	7	5	5	4	6	4	4	5	2	5	4	55件
地域	郡内	3	6	4	5	4	4	3	4	4	2	4	3	46件
	郡外	1	1	1	0	0	2	1	0	1	0	1	1	9件

2. 外出支援状況

利用目的	受付件数	実施件数
受診移送	50件	39件
入院移送	1件	1件
退院移送	16件	15件
外出移送	0件	0件

月平均利用件数	4.5件
一件の平均距離	43.6km
一件の平均所要時間	2.1時間

8 東蒲の里みかわ園 研修報告

1. 外部研修種別の内訳

項 目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 現場実践に必要な基礎知識等の習得及び、対人援助に必要な伝える力の理解を深めることを目的とした研修	喀痰吸引等研修
		安全運転管理者等講習
		新潟水俣病ケアガイド研修会
		企画研修会
		社会福祉施設新任職員研修
		中堅職員研修
		関東ブロック老人福祉研究総会
		介護力向上講習会
		社会福祉施設接遇研修
		患者等搬送事業乗務員講習会
		社会福祉施設指導的職員研修
		高齢者の栄養と食を支える会 研修会
		高齢者施設等感染症対策研修会
		気づく力研修
		コミュニケーションスキルアップ 研修
看取りケア研修		
口腔ケア研修		
記録の書き方研修		
そ の 他	情報管理説明会など	経営戦略セミナー

2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
平成29年 5月30日	・施設におけるプライバシー保護 ・個人情報について ・倫理及び、法令遵守について ・食中毒について	39	34	87.2
平成29年 6月27日	・災害マニュアルについて ・身体拘束について ・高齢者虐待について	38	33	86.8
平成29年 7月20日 平成29年 7月21日 平成29年 7月24日	・救急法講習	55	55	100.0
平成29年 8月29日	・リスクマネジメントについて ・認知症ケアについて ・安全で負担の少ないトランスファを学ぶ	39	30	76.9
平成29年 9月26日	・腰痛予防について ・ターミナルケアについて	40	28	70.0
平成29年10月31日	・褥瘡予防について ・感染症対策について	40	30	75.0
平成29年11月29日	・様々な認知症、症状について ・防災マニュアルについて	37	26	70.3
平成29年12月19日	・口腔ケア、嚥下のメカニズムについて(外部講師) ・介護機器を使つての勉強会 (介護機器メーカーによる講演)	37	21	58.8
平成30年 3月28日 平成30年 3月29日 平成30年 3月30日	・リスクマネジメントについて ・モルテンによる介護機器の説明会 ※感染症の蔓延により、感染症拡大防止のために資料のみの配布とした	56	56	100.0

3. 研修報告(総括)

① 外部研修

- ・介護力向上研修で習得した知識、技術を内部研修において周知徹底をしたことにより、職員の意識が高まった。

② 内部研修

- ・外部講師を招いて口腔ケア、嚥下のメカニズムについての知識を習得した。
- ・介護機器メーカーによる講演と機器を使用して実践するなどして勉強会を行った。

9 東蒲の里みかわ園 ボランティア活動状況

開催月	活動内容	参加者数
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・新発田市のボランティア(チーム・アイビー)による演歌、歌謡曲 ・フラダンスボランティアによるダンス 	12人
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。 	25人
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・施設外周及び中庭の草刈り。 ・三涼祭(夏祭り)屋台など。 ・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など。 	54人
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など 	10人
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など 	17人
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など ・ふれあいホッとコンサート(フルーツとハープの生演奏) 	23人
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など ・出前講座(三味線の生演奏) 	13人
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週火曜日と金曜日にロビーで行っている喫茶店でコーヒーやお菓子の用意や利用者と会話など 	14人
合計		168人

10 東蒲の里みかわ園 災害対策

1. 避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定避難訓練(緊急伝達訓練含む) 夜間、実際に緊急連絡網により職員を招集し、模擬利用者や車いすをご利用者に見立て避難誘導を実施した。	43名 (職員)
11月2日	日中想定避難訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・阿賀町消防本部立ち会いのもと、避難訓練を実施した。 	18名 (職員)
2月22日	緊急伝達訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・夜間に緊急連絡網を使用し、職員への伝達訓練を行った。 	58名 (職員)

2. 消防設備点検

開催月日	訓練内容
6月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・契約業者による消防設備の点検 スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。
6月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀町消防本部による立ち入り検査 施設内部の立ち入り検査を受けた。
1月11日	契約業者による消防設備の点検 <ul style="list-style-type: none"> ・スプリンクラーなどの消火設備、火災報知器、自家発電設備などの設備の点検を行い、点検結果を阿賀町消防本部へ報告した。

3. 作成

作成日	内容
9月1日	災害対策マニュアル作成(地震、風水害、火災)

11 東蒲の里みかわ園 苦情受付・対応報告

苦 情

<特養>

1. 利用者家族より

施設にお願いがあつて電話した際、対応した職員が電話の保留ボタンを押していなかったため、職員の会話が筒抜けで、その言葉使いを聞き不快に感じました。その後、施設に来園した時にも、気まずかったのか目も合わせない対応をされた。今後、きちんと指導して注意してほしい。

・不快な思いをさせてしまったことを謝罪し、普段の言葉使いや家族及び来園者への接し方について職員へ指導する。また、同じような事を繰り返さないため、施設長より全職員へ指導を行い、ご家族へ報告した。
 <要因:職員の態度>

<短期>

2. 利用者家族より

退所送迎時、家族が不在で、いつものようにベッドに寝かせてもらったが、部屋の電気がついていなかった。出入り口も網戸のままだった。時間と共に暗くなった部屋で、本人は不穏状態となり大声で叫び続けていたので、近所の方が心配する騒ぎになった。多くの方に迷惑をかけ、警察沙汰になりかねない状況だったので十分注意してほしい。

・ご家族に対して謝罪を行った。
 ・送迎時の確認注意事項を個別に作成して送迎車輛に常備することとし、また職員2人で確認することを周知徹底した。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

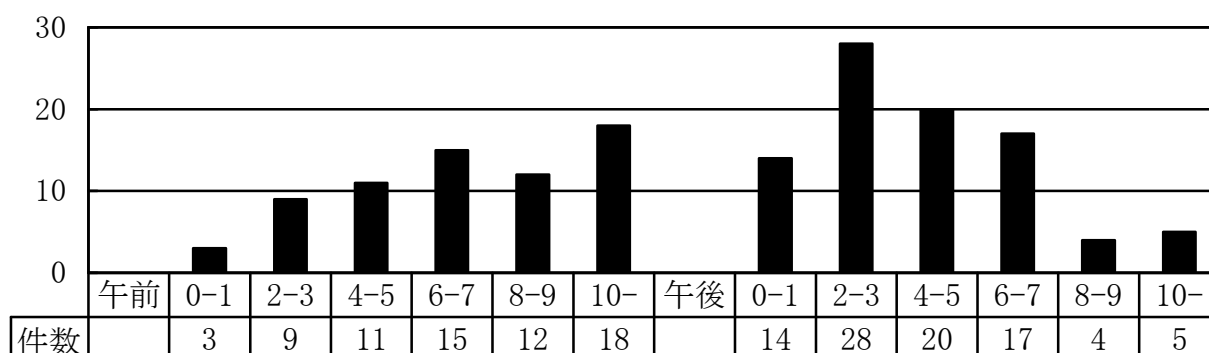
事業	件数
特 養	1 件
短期入所	1 件
通所介護	0 件
合 計	2 件

苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0 件
職 員 の 態 度	1 件
サービスの質	1 件
サービスの量	0 件
権 利 侵 害	0 件
そ の 他	0 件
合 計	2 件

12 東蒲の里みかわ園 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数



〈発生件数合計 156 件〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	70 件
食堂・ダイルーム	49 件
トイレ	12 件
廊下・玄関	7 件
浴室	11 件
施設外	7 件
その他	0 件
合計	156 件

3. 内容別発生件数

発生場所	件数
転倒・転落	74 件
裂傷・火傷	23 件
打撲・皮下出血	28 件
チューブ抜去	3 件
私物紛失	0 件
無断外出	0 件
異食・誤飲	3 件
誤薬	12 件
車輛事故	4 件
その他	9 件
合計	156 件

4. 事故報告

- 各事業所で事故等の発生後に事故原因の分析と検証を行い、発生件数については、平成28年度が167件であったが、平成29年度は156件に減少している。「転倒・転落」と「打撲・皮下出血」の発生件数が増えて来ているため、今後も事故の原因分析と検証を行い、対策を周知徹底して事故予防に取り組む。

IV 平成29年度社会福祉法人東蒲原福社会
とうかん福祉サービス 事業報告

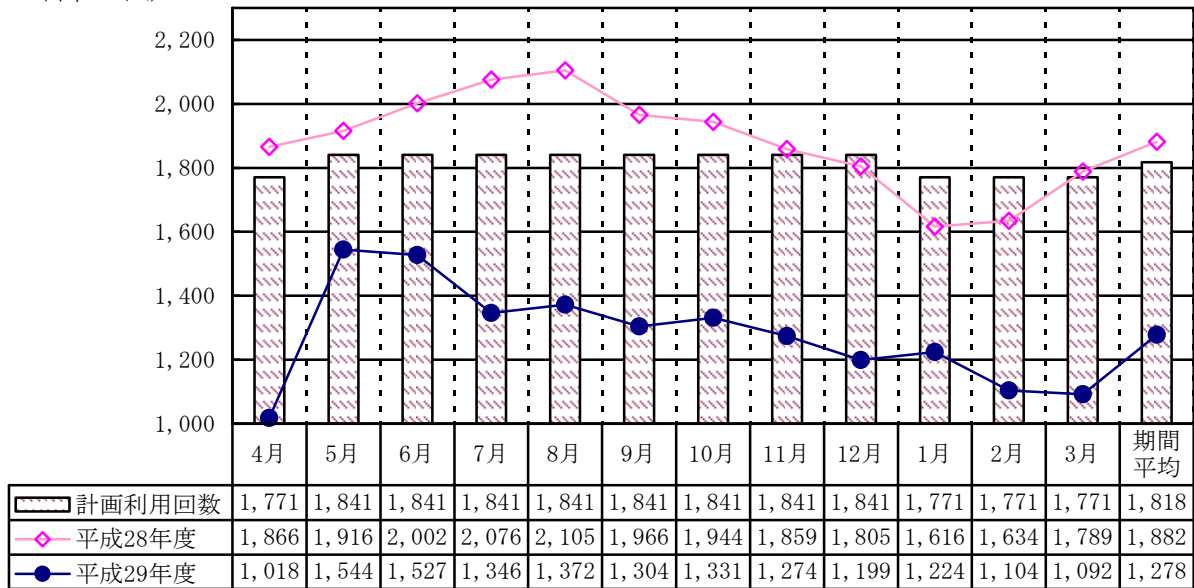
	頁
1. 訪問介護事業	5 1
2. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	5 6
3. 小規模多機能居宅介護事業	5 9
4. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	6 4
5. 居宅介護支援・介護予防支援	6 6
6. 軽度生活支援事業	6 9
7. 閉じこもり予防ケア訪問事業	6 9
8. 高齢者生活調査事業	6 9
9. 障害福祉サービス事業（障害者自立支援）	6 9
10. まごの手サービス（介護保険外事業）	7 0
11. とうかん福祉サービス研修報告	7 2
12. とうかん福祉サービス災害対策	7 4

13. とうかん福祉サービス苦情受付・対応報告	75
14. とうかん福祉サービス事故等発生状況報告	77

1 訪問介護事業

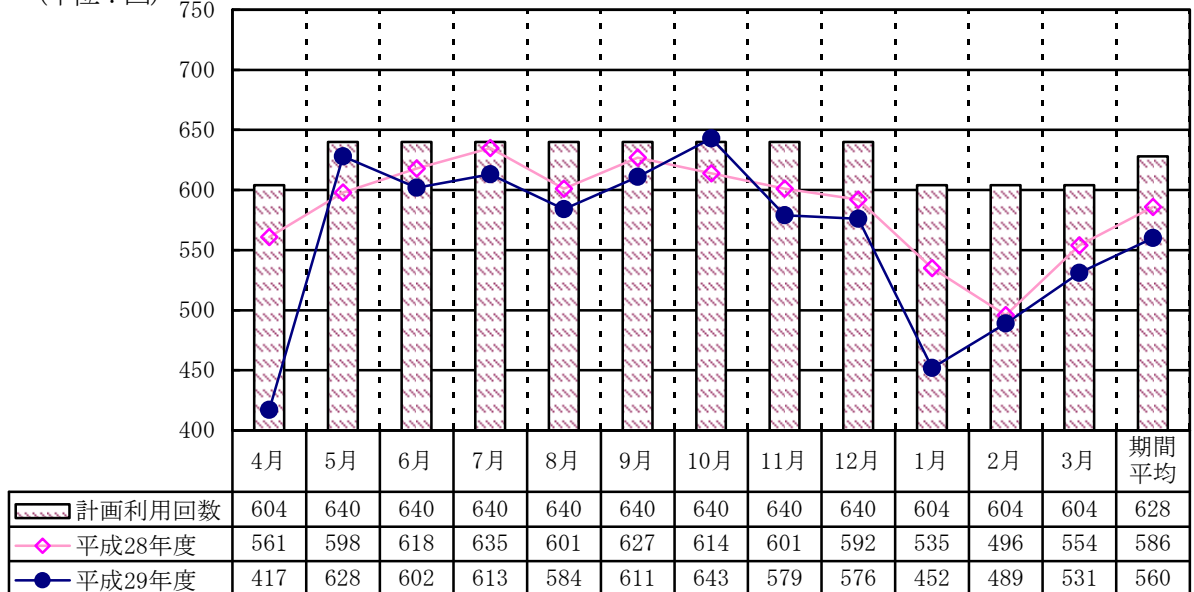
1. 訪問介護月別実績状況

(単位：回)



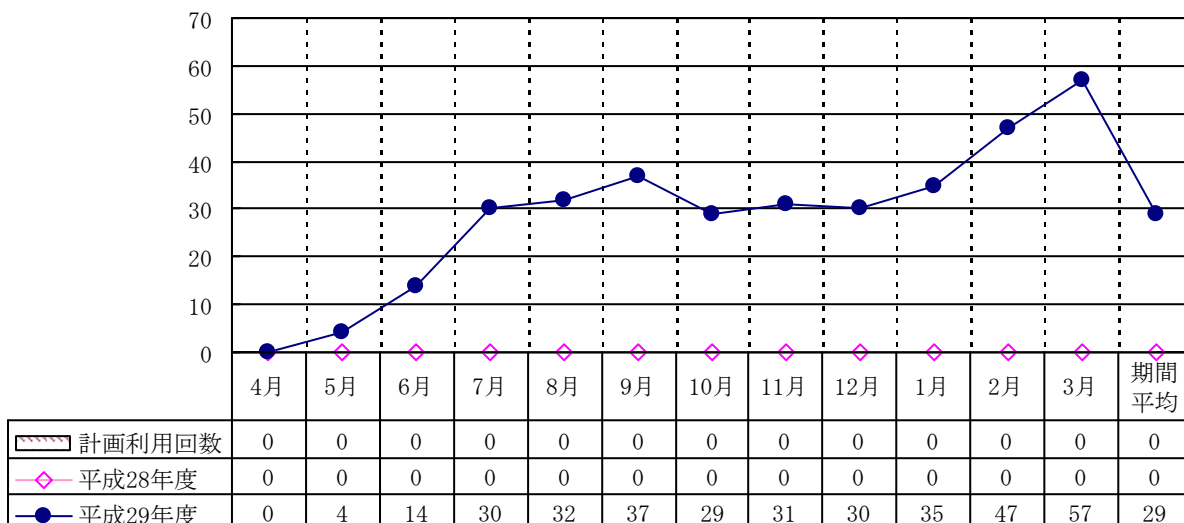
2. 予防訪問介護月別実績状況

(単位：回)



3. 事業対象者月別実績状況

(単位：回)



4. 月別利用状況(予防訪問介護事業、事業対象者含む)

月別区分	利用者数	利用状況			稼働率
		予約	キャンセル	実績	
4月	187人	1,634回	199回	1,435回	87.8%
5月	191人	2,391回	215回	2,176回	91.0%
6月	193人	2,420回	277回	2,143回	88.6%
7月	199人	2,228回	239回	1,989回	89.3%
8月	200人	2,230回	242回	1,988回	89.1%
9月	201人	2,203回	251回	1,952回	88.6%
10月	196人	2,190回	187回	2,003回	91.4%
11月	193人	2,191回	307回	1,884回	86.0%
12月	192人	1,987回	182回	1,805回	90.8%
1月	180人	1,887回	176回	1,711回	90.7%
2月	180人	1,860回	223回	1,640回	88.2%
3月	182人	1,853回	173回	1,680回	90.7%
計	2,294人	25,074回	2,671回	22,406回	89.4%
月平均	191人	2,090回	223回	1,867回	—

※稼働率について

訪問介護事業の予約数を100%として、それに対して実際に利用した実績がどの程度の割合かを表します。

利用実績が22,406回で、予約数が25,074回であったため、

$22,406 \div 25,074 = 0.8935$ 稼働率 89.4%

5. 利用者状況の変化

月区分	新規利用者	利用中止				
		施設入所	事業所変更	死亡	その他	計
4月	5人	5人	0人	2人	0人	7人
5月	5人	0人	0人	1人	0人	1人
6月	10人	3人	1人	3人	1人	8人
7月	12人	3人	1人	0人	0人	4人
8月	6人	2人	0人	1人	1人	4人
9月	7人	0人	0人	3人	0人	3人
10月	4人	4人	0人	1人	2人	7人
11月	4人	5人	0人	3人	0人	8人
12月	10人	1人	0人	3人	0人	4人
1月	4人	0人	1人	4人	0人	5人
2月	5人	1人	1人	2人	0人	4人
3月	5人	0人	0人	1人	3人	4人
計	77人	24人	4人	24人	7人	59人

6. 要介護度別利用延べ回数

	事業 対象者	要支援		要介護度					計
		1	2	1	2	3	4	5	
平成28年度	—	4,375	2,657	5,137	3,592	3,287	6,312	4,250	29,610回
平成29年度	346	3,891	2,834	4,474	3,162	528	3,313	3,858	22,406回

7. 平均介護度及び平均利用回数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用回数
平成28年度	1.33	6.6回	2.73	16.5回
平成29年度	1.34	6.3回	2.57	14.9回

8. 事業報告(総括)

<p>ご利用者が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らしていけるよう、ご家族や地域との結びつきを強化します。</p>	
取組事項	<p>① ご利用者の変化する状況に対し素早く対応ができるよう、ご家族と密に連絡をとり、状態の把握に努めます。</p> <p>② ご家族や地域住民に向けた認知症教室や介護技術教室を開催し、地域で暮らすご利用者の理解を深めてもらえる取組みを行います。</p> <p>③ 必要なとき、必要なサービスが利用できるよう、とうかん福祉サービスのパンフレットを作成し配布します。</p>
実績	<p>① ご利用者の日々の状態について、小さな変化でもご家族にお伝えすることで、ヘルパーとご家族とのコミュニケーションも図られご利用者の状態把握だけでなく、ニーズの把握に繋げることができた。</p> <p>② 地域包括支援センターに協力を仰ぎ、12月13日に中ノ沢地区で認知症サポーター養成講座を開催した。10名の地域住民の参加があり修了者にはオレンジリングを交付した。</p> <p>④ 取組みの計画は立てていたが、パンフレットを完成させることができなかった。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症養成講座の参加者より「地域住民がどんどん高齢化しているの、また機会があれば参加したい。」というお声をいただいた。ご利用者が地域全体で見守られながら生活するサポート体制の構築のために次年度も地域住民との繋がりを持ちながら介護教室などを開催していく。 ・パンフレットを完成させることができなかったため、継続して作成を行い配布できるよう努める。

<p>多様化する利用者やご家族のニーズに応え、在宅生活を支える専門職として自己研鑽に励みます。</p>	
取組事項	<p>① 住み慣れた自宅で自分らしく最期を迎えることができるよう、看取り介護に関する研修を実施します。</p> <p>② 個別年間目標の達成に向け研修計画を立て、技術や知識の習得に努めます。</p>
実績	<p>① 12月に看取り研修にサービス提供責任者1名が参加し、地区検討会で内容を伝達し終末期のご利用者のケアに活かすことができた。</p> <p>② 個別研修計画に沿って外部研修に参加した。復命会については2名の職員に行ってもらい、情報の共有を図ることができた。</p>

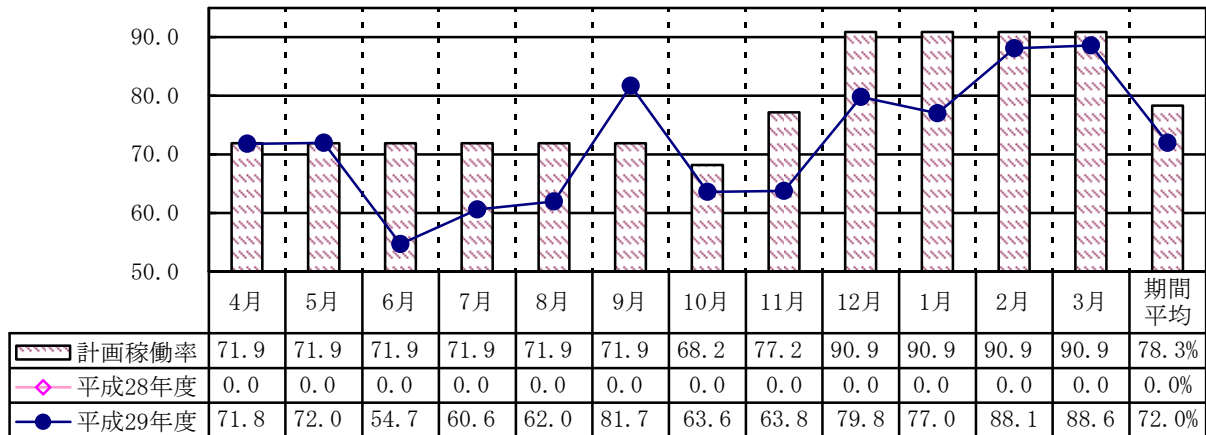
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終末期を迎えたご利用者と、それを支えるご家族に寄り添い介護技術だけでなく、精神面のケア等も含め看取りに関する研修を継続して行っていく。 ・ 多くの職員が外部研修に参加することができ、目標を達成できるよう調整を図る。
----------	--

統一されたサービスを継続して提供できるよう取り組みます。	
取組事項	<ol style="list-style-type: none"> ① お客様満足度調査の分析により「現状の把握」と「改善を要する事項の把握」を行い、ご利用者やご家族の満足度向上を目指します。 ② 在宅サービス事業所と連携し情報を共有することで、身体的、精神的にご利用者を支えられるようサービスを提供します。
実績	<ol style="list-style-type: none"> ① お客様満足度調査の集計、分析を行い。8月に集計内容をご利用者に配布した。また、職員研修で集計結果を報告しサービスの質の向上を目指す取り組みを行った。 ② 3ヶ月に1回居宅支援事業所(とうかんケアプランセンター)と事例検討会を開催し、ご利用者について情報の共有を行ったり、サービスの組み合わせ方などを提案した。 また、法人内の在宅サービスを利用されている方については定期的に情報共有の場を設け、統一されたサービスの提供を行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統一されたサービスを提供できるよう、情報共有の場を定期的に設けていく。

2 短期入所生活介護事業

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

- ・短期入所の1日定員(22人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。
1年間の延べ利用日数が5,772日であったことから

$$\frac{5,772 \text{ 日}}{8,030 \text{ 日} \langle 22 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 0.7188 \quad \text{稼働率 } 72.0\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別利用延べ日数

	要支援		要介護度					計
	1	2	1	2	3	4	5	
平成28年度	0	0	0	0	0	0	0	0日
平成29年度	377	85	867	1,310	1,186	1,594	353	5,772日

3. 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	33	37	32	37	36	34	41	42	39	35	36	42	37人
延べ利用日数	474	491	361	413	423	539	434	421	544	525	543	604	481日

4. 平均介護度及び平均利用日数(期間平均)

	要支援		要介護	
	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数	平均介護度	利用者1人あたり 月平均利用日数
平成28年度	—	—	—	—
平成29年度	1.21	10.5日	2.63	13.2日

5. 要介護度状態の変化(平成 30 年 3 月にご利用されている方を対象とします。)

内容	要支援	要介護
改善	0 人	0 人
維持	5 人	35 人
悪化	0 人	2 人
合計	5 人	37 人

6. 年間行事報告

月 別	実施行事	内 容
4 月 27 日	花見	・角神まで行き新緑の山を眺め気分転換を図った。
6 月 15 日	バスハイク	・ハーバルパークに行き景色を眺め、写真撮影や花を近くで見て楽しんでいただいた。
9 月 29 日	敬老会	・式典と祝賀を行い、余興は職員が劇や踊りを披露した。
11 月 10 日	秋の収穫祭	・銭太鼓ほほえみ会の演奏を聴き、ご利用者に手伝ってもらい作った豚汁を昼食に食べていただいた。
12 月 26 日	クリスマス忘年会	・さざなみ会による歌を楽しみ、クレープを作り食べていただいた。職員がサンタクロースになってご利用者にプレゼントをお渡した。
2 月 5 日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3 月 1 日 ～3 日	雛祭り	・雛壇を設置し、鑑賞や写真撮影を行った。

7. 事業報告(総括)

ご利用者の生きる力や心が活性化するよう支援します。	
取 組 事 項	①行事やレクリエーションを積極的に計画し実施します。 ②地域とのつながりを大切にし、交流できる機会を確保します。
実 績	①小規模、グループホームと合同で行事を実施することができた。レクリエーションについては毎日午後から実施を計画したが、利用者の参加が少なく集団体操で終わる日もあった。 ②外出の機会が少なく、地域住民との交流がなかった。
課題と今後の取組	・合同行事以外での計画が作成できなかった。ご利用者が楽しめるレクリエーションや外出し地域住民と交流できる機会が増えるよう計画し実施する。

中重度のご利用者への対応を充実させます。	
取組事項	①中重度のご利用者でも住み慣れた地域で生活できるよう関係機関と連携を強化します。
実績	①退院後の利用者を積極的に受け入れ医療機関や家族、ケアマネジャーと連携をとり、状態変化について情報共有に努めた。入退院を繰り返すご利用者は状態変化の早期発見で悪化する前に医療機関へ受診することができた。
課題と今後の取組	・関係機関からの情報収集が少なくケアが行き届かないこともあった。ご利用者のご家族に安心して利用していただくためにも情報収集は細かく行なっていく。

介護サービスの質の向上を目指し、ご利用者の安心や満足を届けられるよう支援します。	
取組事項	①ご利用者の生活リズムを把握し、一人ひとりにあったケアを行ないます。 ②ご利用者の身体状況に合わせた支援ができるよう、職員育成・指導に力を入れます。
実績	①ご利用者のリズムを把握はできたが、個々にあった必要なケアは行えなかった。特に中重度のご利用者を受け入れた場合にケアの統一が図れなかった。 ②介護技術に差があり、基本的な部分が備わっていないため、毎月の会議や処遇中に指導を行うことがあった。また、研修時間を設け基礎的技術の実技を交えて勉強会を行った。
課題と今後の取組	・基本的な技術が備わっていないと、ご利用者個々のケアや統一が図れない、今後も研修を計画し実施していく。

3 小規模多機能居宅介護事業

1. 介護度別登録者数

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援1	7	8	8	7	9	7	7	6	6	7	7	7	7.2人
要支援2	2	2	2	2	2	3	3	4	5	5	4	3	3.1人
要介護1	5	4	3	4	4	5	5	7	7	6	6	6	5.2人
要介護2	2	3	3	3	3	3	3	1	1	1	1	0	2.0人
要介護3	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.7人
要介護4	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	1.2人
要介護5	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1.2人
合計	18	20	19	20	23	22	22	22	23	23	22	23	21.4人
稼働率	75.0	83.3	79.2	80.0	92.0	88.0	88.0	88.0	92.0	92.0	88.0	92.0	86.5%

※稼働率について

小規模多機能居宅介護事業の登録定員を100%とした場合の実登録者の割合を表しています。

平成29年4月～平成29年6月まで登録定員24名、

平成29年7月～平成30年3月まで登録定員25名

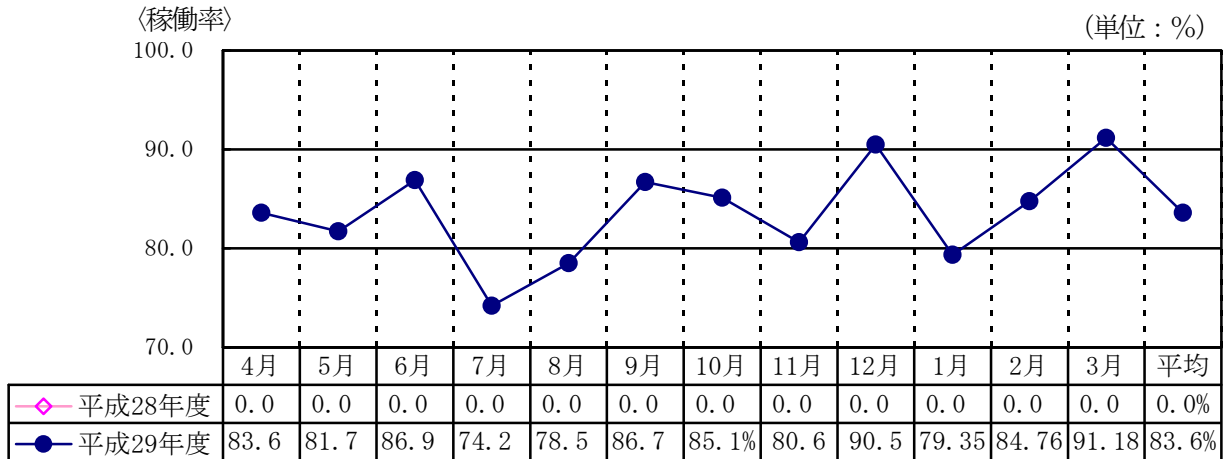
$(\text{実登録者数}) \div (\text{登録定員}) = \text{稼働率}$ となっています。

2. サービス別稼働率

(1) 訪問サービス

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実利用者数	2	4	4	9	5	5	8	6	7	5	5	7	5.6人
延べ利用回数	24	103	145	135	225	169	217	223	244	274	222	278	188回

(2) 通いサービス



※稼働率について

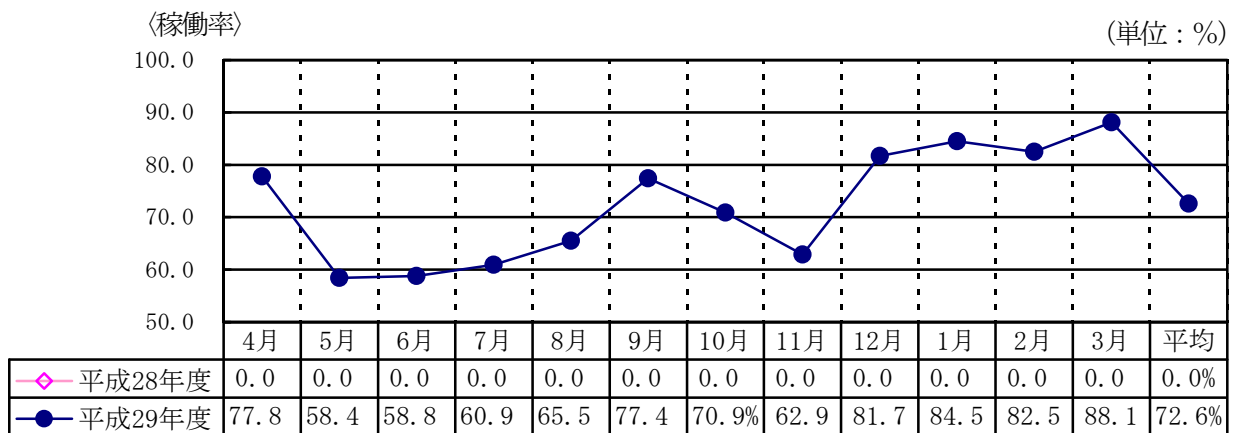
通いサービスの1日定員を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

平成29年4月～平成29年6月までは定員12名

平成29年7月～平成30年3月までは定員15名

$(延べ利用人数) \div (定員 \times 実稼働日数) = \text{稼働率}$ となっています。

(3) 泊まりサービス



※稼働率について

泊まりサービスの1日定員(9人)を100%とした場合の、延べ利用者数の割合を表します。

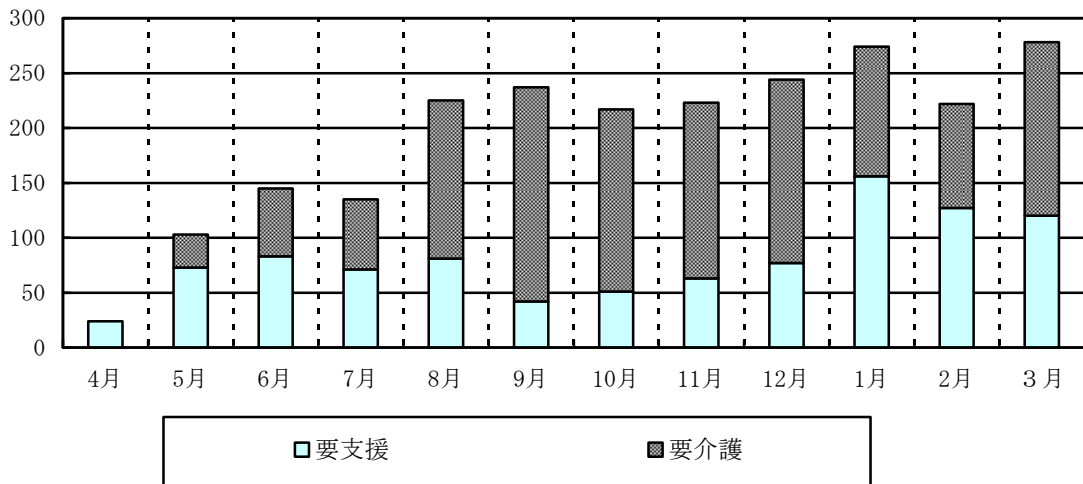
1年間の延べ利用人数が2,378人であったことから

$\frac{2,380 \text{ 人}}{(定員) (実稼働日数)} = 0.7245 \text{ 稼働率 } 72.5\%$

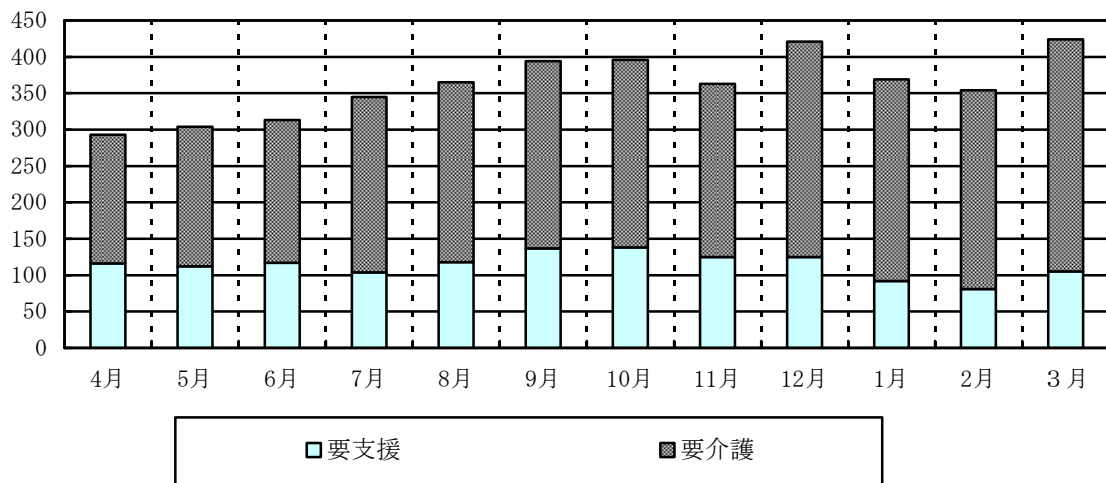
3. 介護度別およびサービス別延べ利用回数

(1) 訪問サービス

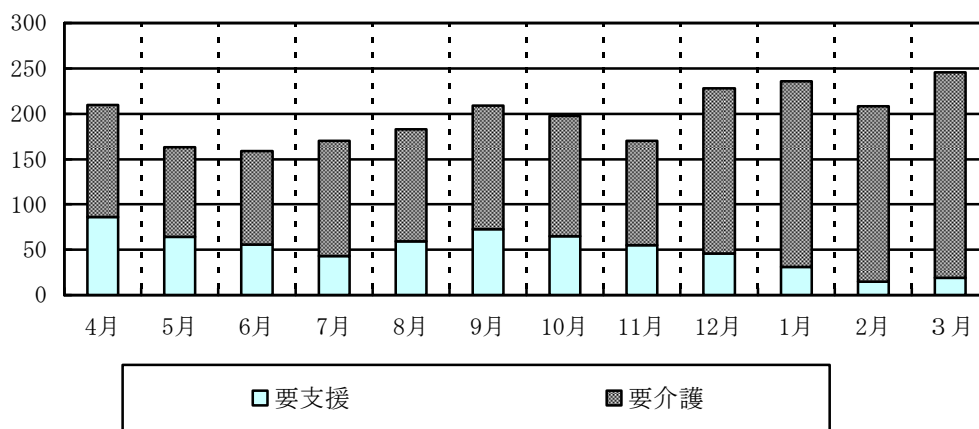
(単位：回)



(2) 通いサービス



(3) 泊まりサービス



4. 平均介護度(期間平均)

	要 支 援	要 介 護
平成 28 年度	—	—
平成 29 年度	1.33	2.21

5. 年間行事報告

月 別	実 施 行 事	内 容
4 月 19 日 4 月 23 日	観桜会	・角神やさゆり公園まで行き桜の花を眺めながら散歩や、茶話会で気分転換を図った。
5 月 5 日	バスハイク	・ハーバルパークに行き、上から景色を眺め、写真撮影や花を近くで見て楽しんでいただいた。
6 月	バスハイク	・室谷方面や角神に出かけ、山々の景色を眺め気分転換を図った。
7 月・8 月	バスハイク	・黒岩のエミューを見学、室谷や、向ノ島公園など、涼を感じていただける場所に出かけた。
9 月 29 日	敬老会	・式典と祝賀を行い、各事業所職員による余興で楽しんでいただいた。
10 月 14 日	バスハイク	・九島栗園に行き、地域の方との交流や、栗や山の実を食べて楽しんでいただいた。
11 月 10 日	秋の収穫祭	・銭太鼓ほほえみ会の演奏や、ご利用者と一緒に作った豚汁を昼食に振舞った。
11 月 15 日	阿賀町作品展見学	・旧鹿瀬中学校で行われた、作品展を見学し楽しまれた。
12 月 26 日	クリスマス忘年会	・さざなみ会による歌を楽しみ、午後からはクレープを作り食べていただいた。職員がサンタクロースになってご利用者にプレゼントをお渡した。
2 月 5 日	節分	・鬼に扮した職員が事業所を回り、ご利用者に豆まきをしていただいた。
3 月 1 日 ～3 日	ひな祭り	・雛壇を設置し、鑑賞や写真撮影を行った。

6. 事業報告(総括)

小規模多機能型居宅介護支援の特性を活かしたサービスを提供します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①全職員が事業について理解します。 ②ご利用者の状態把握や日常生活全般の状況の的確な把握を行います。 ③多様な活動ができるよう、地域における活動や生活環境に応じたレクリエーション、ご利用者の趣味、嗜好に応じた活動を計画します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①ひと月実施する内部研修や、業務改善チームの会議において個々のご利用者が必要としているサービスについて検討し、泊まり、通い、訪問を組み合わせたサービス提供を実施した。 ②ご利用者の観察意識を高め、職員一人ひとりがご家族との情報交換ができるよう意識改革を図った。 ③ショートステイやグループホームと合同で、季節ごとの行事を実施することができた。また、事業所独自でも各地域への外出を積極的に行い、地域との交流を図ることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の状態について職員一人ひとりが、基礎知識を持ちチームとして統一したケアの提供ができるよう研修を計画し実施する

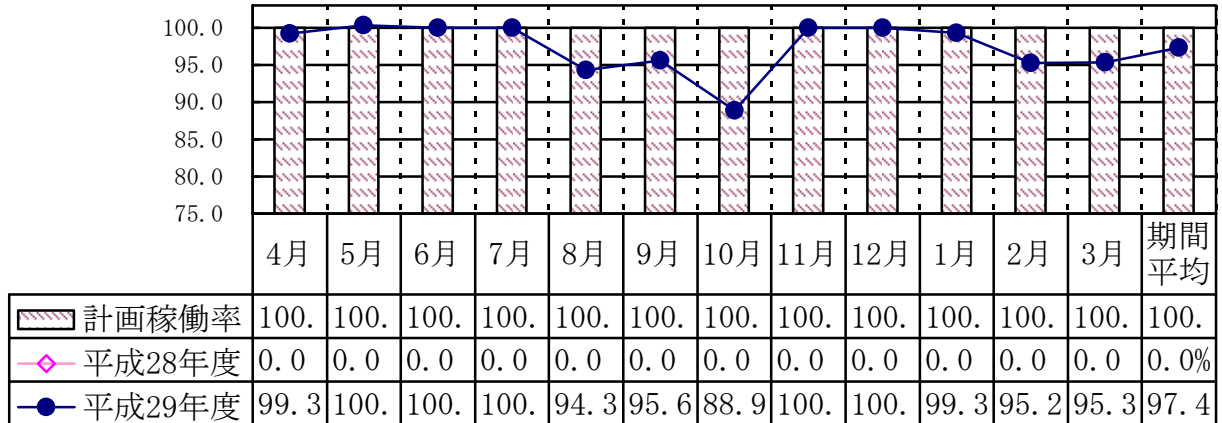
ご利用者の日常生活が充実したものとなるよう、職員の技術・知識向上を目指します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①対人援助技術、介護技術、生活支援全般に関する研修会を計画し実施します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①外部研修への参加や、施設内研修への参加、また事業所内でも研修を実施した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の基礎的知識や技術が備わっていないため、重度認知症のご利用者、医療的観察が必要な利用者に対して、ケアの混乱がみられ、チーム内でのケアの統一が図れなかった。 今後も基礎技術について、さまざまな研修を計画、実施していく。

地域の方に小規模多機能型施設について知ってもらえる取り組みを行います。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①小規模多機能型居宅介護の利用方法やサービスについて、周知する方法を検討します。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①運営推進委員会にて説明を行った。また、地域のケアマネに小規模多機能を利用するメリットや、料金について説明した。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方々にも小規模多機能型施設について知ってもらえるよう、地域行事への参加や広報活動を計画する。

4 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

1. 施設利用稼働率

(単位：%)



※稼働率について

認知症対応型共同生活介護事業所の1日定員(9人)を100%とした場合の、実利用者の割合を表します。1年間の延べ利用日数が3,198日であったことから

$$\frac{3,198 \text{ 日}}{3,285 \text{ 日} \langle 9 \text{ 人} \times 365 \text{ 日} \rangle} = 0.9735 \quad \text{稼働率 } 97.4\%$$

(延べ利用日数) (定員) (実稼働日数)

2. 要介護度別入所者数(平成30年3月31日現在)

	要支援	要介護度					平均
		2	1	2	3	4	
平成28年度	0	0	0	0	0	0	0
平成29年度	1	3	3	0	1	1	9

3. 事業報告(総括)

ご利用者の有する能力に応じた自立した生活を送れるよう支援します。	
取組事項	① ご利用者の有する能力の正確な把握に努めます。 ② ご利用者の意欲喚起に努めADLの維持・向上に努めます。
実績	① ご利用者の再アセスメントを行い、全職員で情報の共有を行った。 ② 意欲喚起のため職員の意識付け、ご利用者に働きかけ意欲を持ってもらうためコミュニケーション等の研修を実施した。また、ご利用者担当が主となり、ご利用者のADL維持、向上のため、過去の生活歴や趣味等を洗い出し、実施のための取り組みを行った。
課題と今後の取組	・ 定期的に計画を見直し、ご利用者のADL評価を行いながら継続し

	て取り組みを実施していく。
--	---------------

ご利用者の精神的な不安を取り除き、安定した生活が送れるよう支援します。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者の有する認知症状の正確な把握に努めます。 ② 幅広い認知症の症状について理解を深めるため、職場研修計画を立て、計画的な研修を実施します。 ③ 職員一人ひとりが認知症の病状に合わせた支援ができるよう知識の習得や質の向上に努めます。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者の有する認知症の種類を把握し、症状について確認を行った。 ② 全体研修やグループ会議で認知症に関する研修を行った。 ③ 認知症実践者研修に参加した職員より、認知症の周辺症状や対応方法についての研修会を実施し、全職員で知識の習得・質の向上への取り組みを行った。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修や勉強会のみでなく、習得した知識を活かすことが必要である。今後も勉強会や外部への研修参加を重ねながら、全職員で更なる知識の習得と質の向上のための取り組みを行い、認知症によるご利用者の精神的な不安を取り除くことができるよう支援していく。

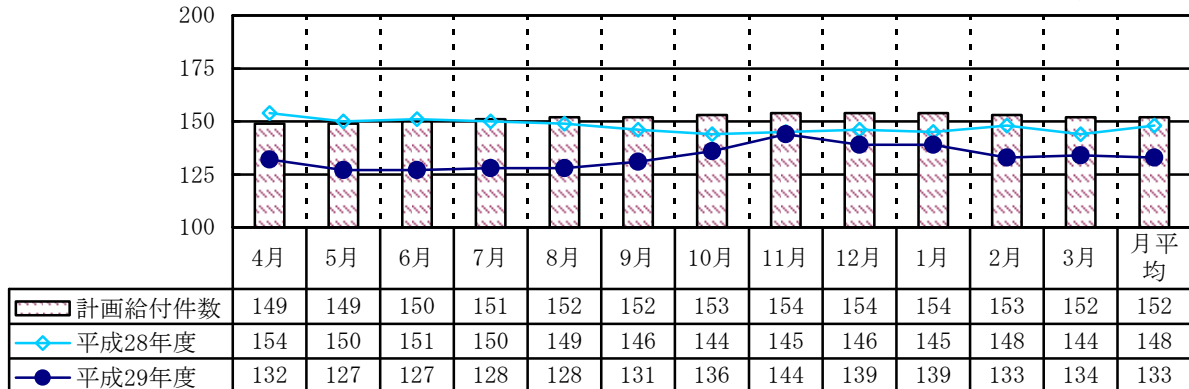
行事やレクリエーションの参加により、気分転換を図ります。	
取 組 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者の状態に合わせた行事やレクリエーション等を検討します。
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ① ご利用者が進んでレクリエーションに参加してくれるよう、全職員で検討。カラオケや体操などにはご利用者も喜んで参加してくれていた。また、外出の機会を多く設けることで、ご利用者の気分転換を図ることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事やレクリエーションの内容を充実させ、気分転換を図りながらメリハリを持った生活が送れるよう取り組みを行っていく。

5 居宅介護支援・介護予防支援

1. 要介護者給付管理状況

〈給付管理件〉

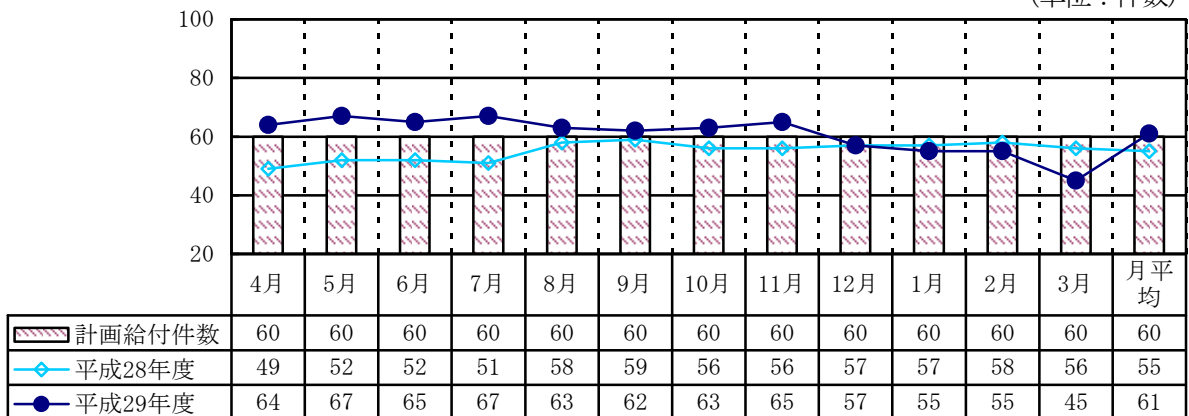
(単位：件数)



2. 介護予防給付管理状況

〈給付管理件〉

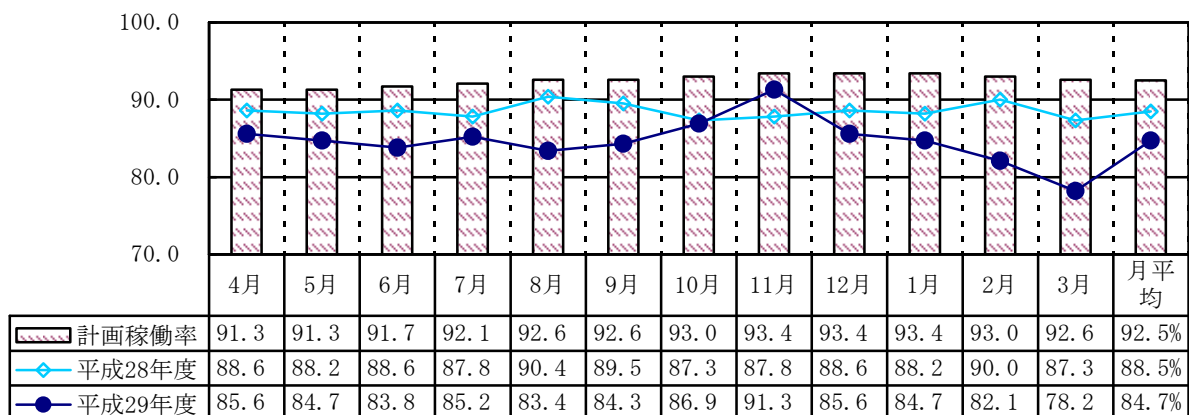
(単位：件数)



3. 介護保険担当者状況

〈稼働率〉

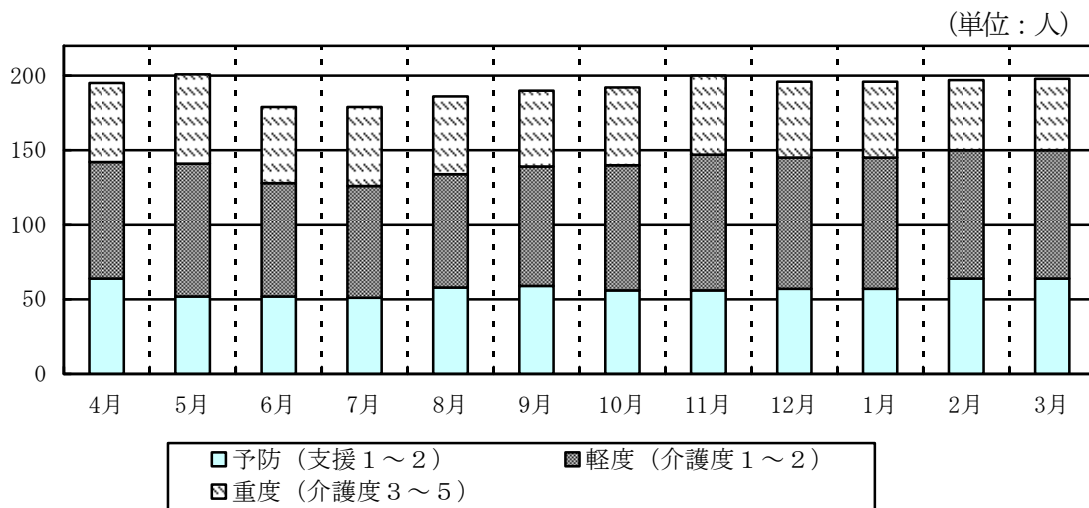
(単位：件数)



※稼働率について

給付管理件数の上限を介護支援専門員 5 名体制で、介護 165 人+予防 64 人=229 人として算出しています。

4. 区分別利用者状況



5. 事業報告(総括)

在宅での生活が一日でも長く継続できるよう、個々の状況に応じた居宅サービス計画を作成します。	
取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ①各サービス事業所の特性や利用方法について理解を深めるため、事業所との意見交換会や事例検討会を行います。 ②サービス利用状況を把握するため事業所に出向くほか、訪問介護員との同行により、より適切なサービス計画が作成できるように努めます。 ③居宅介護計画の新規作成時、更新時に計画書を事業所内で回覧することで、良い点、悪い点をお互いに評価しあい、より良い居宅介護計画作成ができるよう努めます。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ①訪問介護との意見交換会を開催し、サービスの提供方法や支援方法について検討を行った。 ②事業所や利用者宅に出向き、利用者の様子や事業所からの意見を聞くなどして、必要時計画の見直しを行った。 ③互いの居宅介護計画書を目にすることで、作成者の気づかない記入ミスや漏れに気づくことができた。また表現の仕方などを参考にし、次の計画作成時に役立てることができた。
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な困難事例に対応できるよう介護支援専門員としてのスキルアップを図るため、包括支援センターの研修に参加します。 ・他の居宅介護支援事業所と共同で事例検討会を開催します。

利用しやすい事業所となります。	
取 組 事 項	<p>①とうかんケアプランセンターの業務内容や取り組み、またケアマネジャーの顔を知っていただくため、サロン、地区訪問などに参加し、安心して利用していただける関係性をつくっていきます。</p> <p>②ご利用者、ご家族の都合や要望を優先し、時間外でも対応を柔軟に行うことで、利用しやすい事業所を目指します。</p> <p>③新規利用者が事業所を選択する際に、情報提供していただけるよう、事業所の取り組みを包括支援センターに伝えます。</p>
実 績	<p>①法人内の多職種と地域へ出向き、認知症予防や健康体操、介護保険などの情報提供を行った。地域の方の意見を伺う中で、まだまだ介護保険制度や介護支援専門員について知られていないことが分かった。</p> <p>また、阿賀黎明高校の文化祭と黎明学舎へ参加し、学生に向け情報発信を行った。</p> <p>②仕事などにより、日中時間のとれないご家族に対して、時間外に対応することで、ご家族の負担を減らすことができ、喜んでいただけた。</p> <p>③包括支援センターと定期的に連絡を取り、新規利用者獲得に努めた。</p>
課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内事業所の集会や地域貢献活動に参加し、地域住民に向けた情報発信を継続して行います。 ・包括支援センターとの情報交換を継続して行います。

6 軽度生活支援事業

1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	8	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17人
延べ利用回数	34	26	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71回

7 閉じこもり予防ケア訪問事業

1. 月別利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4人
延べ利用回数	0	5	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	14回

8 高齢者生活調査事業

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	0	0	0	0	38	9	65	29	25	27	68	0	261件

9 障害福祉サービス事業

1. 月別利用状況

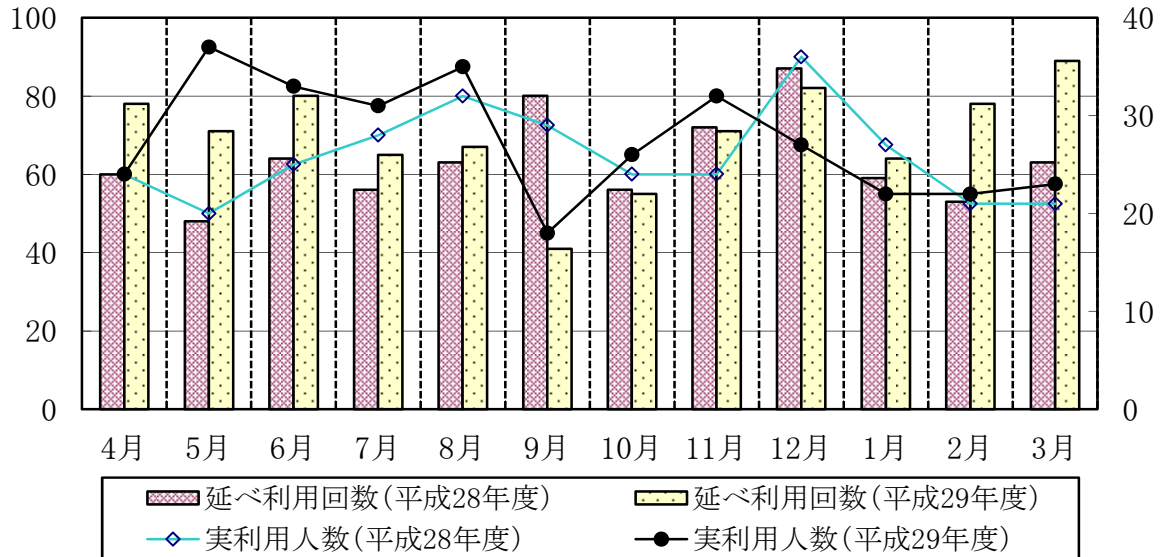
月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用者数	16	17	17	17	17	17	17	17	17	18	18	18	206人
延べ利用回数	291	297	302	313	301	274	282	266	276	300	286	329	3,517回

10 まごの手サービス（介護保険外事業）

1. まごの手サービス 事業利用状況

(延べ利用回数)

(実利用人数)



月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (平成28年度)	24	37	33	31	35	18	26	32	27	22	22	23	330人
実利用人数 (平成29年度)	28	32	31	27	39	28	24	25	32	19	21	24	330人
延べ利用回数 (平成28年度)	78	71	80	65	67	41	55	71	82	64	78	89	841回
延べ利用回数 (平成29年度)	78	88	79	65	66	59	54	49	69	44	55	46	752回

2. 「見守り確認」安心サービス利用状況

月別区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実利用人数 (平成29年度)	11	13	9	11	10	10	10	10	8	8	8	7	115人
延べ利用回数 (平成29年度)	525	580	456	493	466	500	500	356	305	282	270	262	4,995回

3. 事業報告(総括)

在宅生活を支えるため、介護保険では対応できないサービスの充足を図り、ご利用者のニーズに応えることができるよう取り組みます。	
取組事項	①ニーズに応える為アンケートを基にサービス内容の検討を行います。
実績	①在宅生活をできるだけ長く続けていただけるサービスについて検討を行いサービス内容の見直しを行った。
課題と今後の取組	・新しいまごの手サービス内容について周知できるよう、新しいまごの手サービスのパンフレットの作成を検討する。

速やかにサービス利用に繋げることができるよう取り組みます。	
取組事項	①介護保険事業と介護保険外事業の違い、まごの手サービスと見守り確認安心サービスの目的、内容について全職員が理解し説明できるよう勉強会を開催します。
実績	①各地区検討会にて介護保険事業と介護保険外事業の違い、まごの手サービスと見守り確認安心サービスの目的、内容について勉強会を行った。
課題と今後の取組	・新しいまごの手サービスの内容について、ご利用者に全職員が説明できるよう地区検討会にて周知する。

より多くの方に「まごの手サービス」と「見守り確認安心サービス」の利便性と重要性を知って頂く為の取組を行います。	
取組事項	①ご利用者、ご家族、ケアマネジャー、入所施設等に対しパンフレットとチラシを配布し、説明を行います。
実績	①各居宅支援事業所にパンフレットを置いてもらった。 また、介護保険サービスの訪問だけでは自宅での生活が心配な方でも、見守り確認安心サービスを併用して利用することで在宅生活の継続が可能になることの説明を行った。
課題と今後の取組	・介護保険と併用して、見守りサービスを利用の方法をご家族、ケアマネジャーへ周知する。

11 とうかん福祉サービス 研修報告

1. 研修種別の内訳

項目	内 容	主 な 研 修
技 術 向 上 人 材 育 成	職務を遂行するための技術及び質の向上を目的とした研修 指導的立場にある職員が指導、育成するための技術を学ぶ研修	阿賀町老人福祉施設総会
		社会福祉施設新任職員研修
		草刈機取扱い作業安全衛生教育
		難病患者支援における医療費助成制度説明
		新潟県相談支援従事者初任者研修
		新潟県介護支援専門員専門研修
		阿賀町障がい者自立支援協議会療育部会放課後等デイサービス視察研修
		日本ケアマネジメント学会IN新潟大会
		在宅での看取り介護福祉士の役割
		新潟県認知症実践者研修
		新潟県小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修
		平成 29 年度県民介護知識・技術習得講座
		高齢者介護施設感染症対策研修
		被災地での介護支援専門員の役割
		アセスメント研修
		相談援助スキルアップセミナー
		高次脳機能障害について
		事例検討会
		記録の書き方
		地域同行型指導者育成研修
		高齢者介護施設等感染症対策研修
		生活困窮者支援について
		社会福祉施設新任職員研修
		刈り払い機取扱い作業安全衛生教育
		看取りケア研修
		モチベーションアップ研修
		コーチング研修
精神障がい者ホームヘルパー研修		
地域で支えよう！認知症の今を学ぼう		

2. 内部研修参加状況

開催日	研修名	対象職員 (人)	参加者数 (人)	出席率 (%)
平成29年 4月25日	腰痛予防研修(支所研修)	32	29	90.6
平成29年 5月23日	新採用職員対象 オムツ交換基礎研修会、	3	3	100
平成29年 6月22日	法令遵守 認知症研修 3年目研修発表会	44	32	72.7
平成29年 7月12日 平成29年 7月13日 平成29年 7月14日	救急法講習会	44	39	88.6
平成29年 8月22日	QCの技法を用いての課題検討	32	28	87.5
平成29年10月11日 平成29年10月12日 平成29年10月17日 平成29年10月18日	調理実習	45	43	95.6
平成29年11月15日 平成29年11月24日	感染症予防、吐物処理研修	80	73	91.3
平成29年12月 7日	交通安全講話	80	62	77.5
平成30年 1月10日	火災予防講習会	80	52	65.0
平成30年 2月27日	復命会	80	70	87.5

3. 研修報告(総括)

①外部研修

- ・外部研修受講者からの復命を受けることで、新しい情報や技術を身につけサービスの向上につなげることができた。

②内部研修

- ・内部研修では年間計画を作成し、定期的に研修を行うことで個々のスキルアップにつなげることができた。

12 とうかん福祉サービス 災害対策

1. 防災伝達・避難訓練

開催月日	訓練内容	参加者数
6月23日	防災伝達訓練 ・夜間に緊急連絡網を使用し、伝達訓練を行った。	80名
11月1日	避難訓練 ・阿賀町消防署員立ち会いのもと、職員、ご利用者参加による避難訓練を実施した。	18名 (職員) 13名 (利用者)

2. 消防設備点検

開催月日	点検内容
12月27日	消化器具、自動火災報知設備、消防局火災報知設備、非常警報器具及び設備、誘導灯及び誘導標識、非常電源(自家発電設備)

3. 作成

作成日	内容
4月1日	緊急連絡網の連絡経路を一部修正し職員に配布
9月1日	災害対策マニュアル作成(地震、風水害、火災)

4. 備蓄品の配布

・災害時に供え各事業所に備蓄品としてヘルメット・ソーラーランタン・軍手・キャップライト・ポリタンク・防寒シート・救急箱・消火器の点検を行い、設置場所の再確認を実施し、再度職員に周知徹底した。

13 とうかん福祉サービス 苦情受付・対応報告

苦 情

<訪問介護事業>

1. ご利用者ご家族より

まごの手サービスで週に1回、話し相手として訪問していた。「訪問中の様子が何もわからない。訪問したヘルパーの名前と印鑑を押して帰るだけでサービスを提供したことになるのか。どんな様子だったか知りたくても何の記録もない。家族に対する真心が全くないのではないか。些細なことでも記録に残すよう改善してほしい」と電話があった。

・まごの手サービスでは、サービスの内容と実施時間、訪問した職員印を記入するのみの様式を実績としており、訪問中の様子などを記録に残していなかった。日中、独居になるご利用者を心配してまごの手サービスを利用されたことへの配慮がなかった。ご家族からの指摘を受け、話し相手で訪問する際はご利用者の様子がご家族にも伝わるよう、連携ノートに記録を残すことで統一する。

<要因:サービスの質>

<居宅介護支援>

2. ご利用者家族より

利用者家族より、自宅での問題行動があり、ケアマネジャーに話をしたが親身になってくれない。ショートステイを長めに取りたいと話したときも、「それはできません」と言われた。ケアマネジャーはサービスを調整するだけが仕事なのでしょうか？担当を替えもらう事はできないかと相談があった。

・利用者家族に直接話を伺い謝罪をした。担当を変更してほしいということで、家族の了解を得て事業所内で担当の変更を行った。
・家族及びご本人の話を傾聴し、相手の立場に立って一緒に考え改善策を提案していく。
・ご家族及びご本人にできるだけわかりやすい説明を行うようにする。

<要因:サービスの質>

<小規模多機能>

3. 利用者家族より

「今はお金がなく、4月分の利用料の支払いができないため、6月15日の年金支給日まで待つてほしい。5月分についても8月の年金が入ったら支払いに行く。」と事務員に伝え「わかりました。」と返事ももらったのに、今日送迎に来た職員に利用料の支払いを待ってもらっていることを伝えたところ「利用料の管理には携わっていないため、返答することができない。」と言われ、さらに施設に戻ったその職員から「利用料の支払いを待っていることは把握していない。聞いていない。」とわざわざ電話を掛けてきた。責任者より電話がほしい。

・家族に連絡し、度重なる不手際に対して謝罪した。利用料金の支払いに関することは、事業所の職員で判断すべきことではないこと。このような場合には、どのように対応すべきか対応した職員に指導を行った。

<要因:サービスの質>

苦情の発生件数

事業	件数
訪問介護	1件
居宅支援	1件
短期入所	0件
小規模多機能	1件
グループホーム	0件
合計	3件

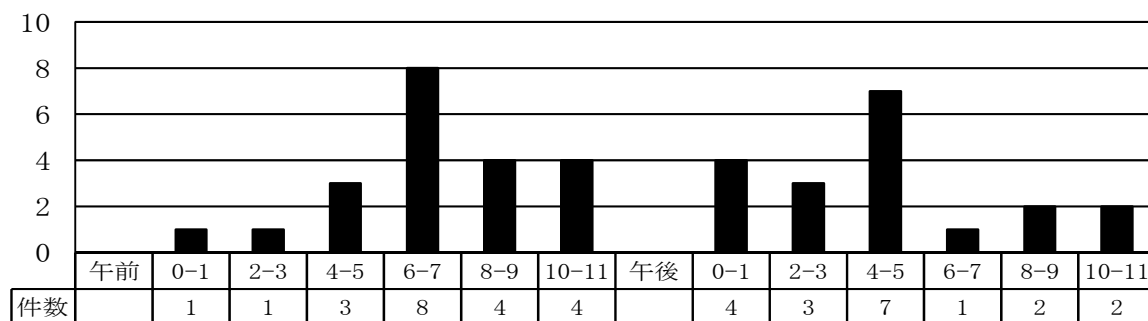
苦情の発生原因

内容	件数
説明・情報不足	0件
職員の態度	0件
サービスの質	3件
サービスの量	0件
権利侵害	0件
その他	0件
合計	3件

14 とうかん福祉サービス 事故等発生状況報告

1. 時間帯別発生件数

(単位：件数)



〈発生件数合計 40 件〉

2. 場所別発生件数

発生場所	件数
居室	16 件
ホール	11 件
トイレ	2 件
廊下・玄関	0 件
浴室	0 件
施設外	3 件
利用者自宅	3 件
その他	5 件
合計	40 件

3. 内容別発生件数

事故内容	件数
転倒・転落	13 件
裂傷	2 件
打撲・皮下出血	2 件
チューブ抜去	3 件
無断外出	0 件
私物紛失	0 件
異食・誤飲	1 件
誤薬・服薬忘れ	6 件
車輛事故	3 件
その他	10 件
合計	40 件

4.事故等発生状況総括

- 車輻事故については、車輻周辺の障害物の確認を怠ったために障害物と接触した事故が多かった。車輻事故が発生した場合には、安全運転管理者が事故の原因や車輻の破損状態を当事者と確認し、個々に安全運転について指導を行い、各支所に安全運転について注意を促した。
- ケアセンターどんぐりでは、事故の発生場所で多かったのが居室である。多床室1部屋を除き全室個室となっており、職員の目が届かない所での事故が多かった。事故発生後には、事故原因の分析と検証を行っており、対策・対応を行うことで事故等減少の取り組みを行っていく。